

シラバス(授業計画) 目次

科目区分	授業科目の名称	科目責任者	必修区分	単位数	開講時期	曜日	時限	教室	ページ		
共通科目 (7科目)	社会健康医学概論	小島原典子	必修	2	1前 前後半	金	3	講義室2	66		
	公衆衛生危機管理論	小島原典子	選択	2	1後 前後半	金	4	演習室2	68		
	基礎医学講座	森 潔	選択	1	1前 前半	金	6	講義室2	70		
	高齢者ケア概論	森 寛子	必修	1	1前 後半	土	4	講義室2	71		
	公的統計活用法	佐藤康仁	選択	1	1後 前半	土	3	演習室1	72		
	文献検索法・文献評価法	佐々木八十子	必修	1	1前 前半	土	5	講義室2	73		
	プレゼンテーション・ライティングスキル	藤本修平	必修	1	1前 後半	金	4	講義室2	74		
公衆衛生学 科目 (22科目)	疫学領域 (4科目)	疫学概論	小島原典子	必修	1	1前 前半	土	4	講義室2	75	
		疫学研究・臨床研究特論	田原康玄	選択	1	1後 後半	土	5	演習室1	76	
		臨床研究概論	小島原典子	必修	1	1前 前半	金	5	講義室2	77	
		疫学・ゲノム疫学特論	田原康玄	選択	1	1後 後半	土	3	講義室3	78	
	医療統計学領域 (4科目)	医療統計学概論	中谷英仁	必修	2	1前 前後半	土	6	講義室2	79	
		医療統計学特論	中谷英仁	選択	2	1後 前後半	土	※5	講義室1	81	
		臨床試験解析学	中谷英仁	選択	1	2前 前半	金	6	講義室1	83	
		観察研究解析学	中谷英仁	選択	1	2前 後半	金	6	講義室1	84	
	環境健康科学領域 (3科目)	環境健康科学・産業衛生学概論	天笠 崇	必修	2	1前 前後半	土	3	講義室2	85	
		環境健康科学・産業衛生学特論	天笠 崇	選択	1	1後 前半	土	2	演習室1	87	
		生活習慣病(生活習慣・遺伝子・環境)	臼井 健	選択	1	1後 前半	金	5	演習室3	88	
	行動医学・ヘルス コミュニケーション学 領域 (5科目)	健康情報学	山本精一郎	選択	1	1後 前半	金	3	演習室1	89	
		ヘルスコミュニケーション概論	山本精一郎	必修	1	1前 後半	土	5	講義室2	90	
		ヘルスコミュニケーション特論	溝田友里	選択	1	2前 前半	金	5	演習室2	91	
		行動医学	山本精一郎	必修	1	1前 後半	金	6	講義室2	92	
	健康管理・ 政策学領域 (6科目)	健康医療社会学	山崎浩司	選択	2	1後 前後半	土	4	講義室2	93	
		健康・医療ビッグデータ概論	栗山長門	必修	1	1前 前半	土	2	講義室2	95	
		健康・医療ビッグデータ特論	中谷英仁	選択	1	2前 前半	金	3	講義室1	96	
		健康政策・医療経済学概論	栗山長門	必修	1	1前 後半	金	5	講義室2	97	
		健康政策・医療経済学特論	栗山長門	選択	1	2前 前半	土	4	講義室3	98	
		社会健康医学倫理概論	八田太一	必修	1	1前 後半	土	2	講義室2	99	
	ゲノム 医学科目 (5科目)	ゲノム医学領域 (5科目)	医科遺伝学概論	田原康玄	必修	1	1前 前半	金	4	講義室2	101
			医科遺伝学特論	木下和生	選択	1	1後 後半	金	5	演習室3	102
遺伝カウンセリング			臼井 健	選択	1	1後 後半	土	2	演習室3	103	
遺伝カウンセリング実習			臼井 健	選択	1	2前 後半	土	3	演習室2	104	
ゲノム医学(疾患と遺伝子)			臼井 健	選択	1	2前 前半	土	3	演習室3	105	
発展科目 (14科目)	フィールド実習	フィールド実習	田原康玄	選択	1	2前 前半	土	2	演習室1	106	
		死生学	山崎浩司	選択	1	2前 前半	土	5	講義室3	107	
		社会健康医学における質的研究法	山崎浩司	選択	1	1後 後半	金	3	演習室1	108	
		社会健康医学における混合研究法	八田太一	選択	1	2前 後半	金	5	演習室1	109	
		精神保健学概論・心理社会的支援技術論	天笠 崇	選択	1	2前 後半	金	4	演習室1	110	
		医療・ケア組織論	天笠 崇	選択	1	2前 後半	土	5	演習室3	111	
		高齢者ケア特論	森 寛子	選択	1	2前 後半	土	2	演習室1	112	
		高齢者運動・リハビリテーション論	藤本修平	選択	1	2前 前半	金	4	演習室3	113	
		聴覚言語学領域 (6科目)	聴覚コミュニケーション学概論	高木 明	自由	1	1後 前半	水	6	演習室3	114
			聴覚コミュニケーション学特論	高木 明	自由	1	1後 後半	水	6	演習室3	115
			小児聴覚評価法	高木 明	自由	1	2前 前半	水	6	演習室3	116
			脳の発達と聴覚	高木 明	自由	1	2前 前半	木	6	演習室3	117
			小児難聴マネジメント	高木 明	自由	1	2前 後半	水	6	演習室3	118
	老年オーディオロジー		田中智英巳	自由	1	2前 後半	木	6	演習室3	119	
特別研究	修士論文								120		
	課題研究								122		

※ 医療統計学特論1年次後期後半は土曜日6時限目に開講

※ 実習科目(遺伝カウンセリング実習、フィールド実習)は1回目(オリエンテーション)のみ上記のとおり実施

1時限	9:00~10:30
2時限	10:40~12:10
3時限	13:00~14:30
4時限	14:40~16:10
5時限	16:20~17:50
6時限	18:30~20:00

科目名	社会健康医学概論		開講日・時限	金曜日・3時限(13:00~14:30)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(前半・後半)		単位数	2単位(90分×15コマ)		
科目責任者	小島原典子		担当教員	小島原典子、宮地良樹、中山健夫、栗山長門、田原康玄、長谷川敏彦、菅原 照、山本精一郎		
科目概要	<p>予防医学や先進医療の視点を取り入れ、社会健康医学に関するテーマについて、各分野の研究者による講義を行うとともに、研究論文や事例を用いた演習を行う。 (オムニバス方式/全15回) (小島原典子/6回)ライフスタイルと健康に関して学生による反転授業を行い、後半は研究論文、事例を紹介しながら討論で理解を深める。 (宮地良樹/2回)健康の定義、健康を取り巻く国及び地方の現況、静岡県の特性について講義し、地域課題について討論を行う。 (中山健夫/1回)社会健康医学上の課題を概観し、ライフコースを通じた予防、医療、ケアの課題と可能性を考える。 (栗山長門/2回)ライフスタイルについて、健康を阻害する要因及び身体にもたらす影響について解説し、疾病を予防したり健康を延伸したりする取組について討論を行う。 (田原康玄/1回)フレイルやそのリスク因子についての講義を踏まえ、フレイルを予防するための介入方法や施策等について討論する。 (長谷川敏彦/1回)医療マネジメント学から見た静岡県の現状を講義する。 (菅原照/1回)静岡県の医療体制について現状と課題を講義する。 (山本精一郎/1回)がん予防やがん検診のエビデンス、および普及における問題点を講義し、効果的な普及について討論を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活習慣病の知識を身に付け、予防するための生活習慣を説明できる。 健康指標の評価法について研究方法を理解できる。 健康の捉え方について理解し、健康の概念について説明できる。 現代社会における健康問題について列挙し、健康づくり施策の変遷を説明できる。 静岡県の特性を理解し、取り組みを説明できる。 喫煙、飲酒、運動、身体活動などライフスタイルの課題について社会健康医学的に説明できる。 健康の評価法について説明できる。 					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	健康の概念と日本の現況	健康の概念を理解し、わが国の健康の現況と取り組みについて解説する。(最初の講義なので、相互自己紹介も予定)	宮地良樹	○	○
	2	静岡県の現況	静岡県の健康の現況を解説し、課題について討論する。	宮地良樹	○	○
	3	京都大学SPH(School of Public Health)での経験から	「京大SPH」の取り組みを通して、静岡県における新たな社会健康医学の開拓に向けた視点を提示する。	中山健夫	○	○
	4	ライフスタイルと健康(1)	喫煙と健康について講義を行った後、研究論文の抄読、または事例紹介を行う。	栗山長門	○	○
	5	ライフスタイルと健康(2)	身体活動と健康について講義を行った後、研究論文の抄読、または事例紹介を行う。	栗山長門	○	○
	6	ライフスタイルと健康(3)	肥満と健康について講義を行った後、研究論文の抄読、または事例紹介を行う。	小島原典子	○	○
	7	ライフスタイルと健康(4)	メンタルヘルスと健康について講義を行った後、研究論文の抄読、または事例紹介を行う。	小島原典子	○	○
	8	健康の評価法(1)	栄養の評価法について講義を行った後、研究論文の抄読、または事例紹介を行う。	小島原典子	○	○
	9	健康の評価法(2)	社会・経済格差の評価法について講義を行った後、研究論文の抄読、または事例紹介を行う。	小島原典子	○	○
	10	健康の評価法(3)	睡眠の評価法について講義を行った後、研究論文の抄読、または事例紹介を行う。	小島原典子	○	○
11	フレイルの理解と予防対策	社会健康医学における新たな課題であるフレイルやそのリスク因子を理解し、フレイルを予防するためのアプローチを考察・討論する。	田原康玄	○	○	

	12	医療マネジメント	医療マネジメント学から見た静岡県の現状を考察する。	長谷川敏彦	○	○
	13	医療体制	静岡県の医療体制について現状と課題を考察する。	菅原 照	○	○
	14	がん予防とがん検診の普及	社会健康医学における大きな問題であるがん予防やがん検診について、そのエビデンスを理解し、有効な普及方法を考察・討論する。	山本精一郎	○	○
	15	総括	我が国の社会と健康について解説し、総括を行う。	小島原典子	○	○
評価方法	担当の発表内容(50%)、ディスカッション参加度・発言内容(50%) ＜成績評価の前提条件＞必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布		参考書	なし		
授業時間外で行う学修内容	予習：反転授業の担当学生は、論文を抄読し講義、討論の準備を行う。 復習：講義内容に関連した文献を読み、理解を深める。					
履修要件等						
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考		
社会人聴講生	△(科目等履修生がいれば受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	公衆衛生危機管理論		開講日・時限	金曜日・4時限(14:40～16:10)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 2		
開講時期	1年次・後期(前半・後半)		単位数	2単位(90分×15コマ)		
科目責任者	小島原典子		担当教員	小島原典子、天笠 崇、谷 晃、溝田友里		
科目概要	<p>地震や台風等の自然災害、食中毒や新型インフルエンザ等の感染症など、公衆衛生を取り巻く危機管理への適切なアプローチについて事例検討を交えた講義を行い、危機管理パス(計画書)の試案を作成し討論する。 (オムニバス方式・共同(一部)／全15回) (小島原典子／8回)概論及び感染症の健康危機管理を中心に講義を行う。 (天笠 崇／2回)虐待、精神疾患に関する講義を行う。 (谷 晃／3回)自然災害や大気汚染に関する講義を行う。 (小島原典子、天笠 崇、溝田友里／2回)(共同)リスクコミュニケーションに留意して作成した危機管理パスを用いて演習を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症の健康危機管理について説明できる。 2. リスクコミュニケーション、危機管理パスについて説明できる。 3. 自然災害の健康危機管理について説明できる。 4. 虐待、精神疾患など社会問題の危機管理について説明できる。 					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	災害対策概論	ゲストスピーカーによる危機管理の概論の講義を行う。 一般的なパスの作成方法について解説する。	小島原典子	×	×
	2	自然災害(1)	静岡の地形や気象を中心とした自然災害について解説する。 これらの自然災害について、パスの試案を作成する。	谷 晃	○	○
	3	自然災害(2)	地震・津波・噴火による災害についてゲストスピーカーによる解説を行う。 これらの自然災害について、パスの試案を作成する。	谷 晃	○	○
	4	大気汚染	台風・集中豪雨・気候変動について説明し、取るべき防災行動について考え、パスの試案を作成する。 また、光化学オキシダント等の大気汚染の現状と、人や農作物への影響について解説する。	谷 晃	○	○
	5	感染症(1)	感染症概論・関連法規について解説を行う。	小島原典子	○	○
	6	感染症(2)	感染症対策の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、感染症対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子	○	○
	7	感染症(3)	結核の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、感染症対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子	○	○
	8	感染症(4)	輸入感染症の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、新型インフルエンザ、エボラ出血熱、ジカウイルス感染症、人畜共通感染症対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子	○	○
	9	中毒	テロを含む化学中毒対策の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、中毒対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子	○	○
	10	公害対策	公害対策の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、公害対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子	○	○
	11	虐待	児童虐待、DV実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、虐待対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	天笠 崇	○	○
	12	精神疾患	精神疾患に関する危機管理実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、精神障害対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	天笠 崇	○	○
13	リスクコミュニケーション(1)	リスクコミュニケーションについて概説し、作成したパスの発表会の準備を行う。	小島原典子、 天笠 崇、 溝田友里	○	○	

	14	リスクコミュニケーション(2)	障害者対応・外国人対応に対して概説し、作成したパスの発表会の準備を行う。	小島原典子、 天竺 崇、 溝田友里	○	○
	15	発表会	学修した課題から学生がパスを作成して、普及啓発の模擬発表する。	小島原典子	×	×
評価方法	討論の参加度(30%)、危機管理パスの作成(30%)、発表(40%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全15コマ中10コマ以上)を条件とする。					
テキスト	スライドハンドアウト		参考書	なし		
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、事例発表の準備をすること。					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「社会健康医学概論」の単位を修得していることが望ましい。					
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考		
社会人聴講生	△(科目等履修生がいれば受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	基礎医学講座		開講日・時限	金曜日・6時限(18:30~20:00)		
必修区分	選択		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	森 潔		担当教員	森 潔、菅原 照		
科目概要	医療系学部以外を卒業した学生が、公衆衛生に関わるために不可欠な医学に関する基礎知識について講義を行う。 (オムニバス方式/全8回) (森潔/4回)身体の仕組み、薬理学、免疫学等の基礎知識に関する講義を行う。 (菅原照/4回)人体の構造と機能、病理学、内科学の基礎知識に関する講義を行う。					
到達目標	生理学・解剖学・病理学・内科学などの基本を理解する。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	概説と身体の仕組み	本講義の進め方と、身体の仕組み、医学の歴史について解説する。	森 潔	×	×
	2	解剖学の基礎	解剖学の基礎を解説する。	菅原 照	○	○
	3	組織学・病理学の基礎	組織学・病理学の基礎を解説する。	菅原 照	○	○
	4	生理学の基礎	生理学の基礎を解説する。	菅原 照	○	○
	5	薬理学の基礎	薬理学の基礎を解説する。	森 潔	○	×
	6	内科学の基礎	内科学の基礎を解説する。	菅原 照	○	×
	7	免疫学の基礎	免疫学の基礎を解説する。	森 潔	○	○
	8	総括	保健医療職に必要な基礎医学について補足と総括を行う。	森 潔	×	×
評価方法	講義における議論への参加度(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	授業ハンドアウト配布		参考書	なし		
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等						
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考		
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	高齢者ケア概論		開講日・時限	土曜日・4時限(14:40~16:10)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	森 寛子		担当教員	森 寛子、栗山長門、小林美亜		
科目概要	<p>超高齢化社会を迎える日本において、高齢者の生活支援は喫緊の課題であるとともに、大きな役割を担う家族介護者の健康問題も看過できないため、個人差が大きく、慢性疾患併存が特徴の高齢者の健康と、長寿をとりまく現状や課題などについて講義する。 (オムニバス方式/全8回) (森 寛子/6回)高齢者ケアの自助・互助・共助に関する講義を行う。 (栗山長門/1回)介護保険制度、高齢者の疾患に関する講義を行う。 (小林美亜/1回)認知症に関する講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 社会健康医学における高齢者の介護予防と介護支援の取り組みを、自助、互助、共助の観点から学びます。さらに、家族介護者の向き合う問題などを講義とディスカッションで理解を深める。 2. 高齢者ケアについて、エビデンスに基づいた議論を展開できる。 3. 介護による地域社会と個人への影響を、幅広い視点から理解をする。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	高齢化の日本の課題	超高齢化社会の日本の課題について講義を行い、高齢者介護のオリエンテーションとする。	森 寛子	○	○
	2	高齢化社会・介護保険・地域包括ケア	高齢者の疾患の特徴を知り、介護保険と地域包括ケアについて制度を学ぶ。	栗山長門	○	○
	3	高齢者の医療費と介護費	共助の主軸である社会保障制度では、高齢者には、医療費と介護費の総合的な把握が重要であることをレセプトデータを提示して理解を促す。	森 寛子	○	○
	4	家庭内介護の担い手	社会学のゲストスピーカーを招聘し、老々介護のみならず、10代青年層や男性介護者など多様な家族介護者の存在に気づき、介護離職などの課題を認識する。	森 寛子	○	○
	5	社会的孤立	高齢者と家族介護者の社会的孤立と健康被害に関するエビデンスについて講義を行い、身近な問題としてグループディスカッションを行う。	森 寛子	○	○
	6	認知症者へのコミュニケーション	個人の意思を尊重することから認知症者とのコミュニケーションについて理解し、地域社会との共生を考える。	小林美亜	○	○
	7	介護予防	介護予防の重要性を理解し、地域社会での互助を促進させる社会の仕組みについて考え、グループディスカッションを行う。	森 寛子	○	○
8	レジリエンス	「極度の不利な状況に直面しても、正常な平衡状態を維持できる」レジリエンス(Bonanno,G)研究を概説した後、高齢者介護についてグループディスカッションを行う。	森 寛子	○	○	
評価方法	レポート(40%)、グループディスカッション(40%)、講義内の議論参加への参加度(20%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	「健康長寿新ガイドライン エビデンスブック」東京都健康長寿医療センター研究所(社会保険出版) 講義内容に応じて資料を配布	参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。			
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	「高齢者ケア特論」の受講にあたっては本科目の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考			
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考			
備考						

科目名	公的統計活用法		開講日・時限	土曜日・3時限(13:00~14:30)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 1		
開講時期	1年次・後期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	佐藤康仁		担当教員	佐藤康仁		
科目概要	国の行政機関・地方公共団体などが作成した公的統計を、社会健康医学研究に活用できるよう、公的統計の概要、公的統計の利用及び二次利用の方法と活用例について講義するとともに、公的統計を利用した研究論文を用いて演習を行う。					
到達目標	1. 統計と統計制度について説明することができる。 2. 公的統計調査の実際について説明することができる。 3. 公的統計の二次利用について説明することができる。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	統計と統計制度	統計と統計調査、統計作成機構、統計法、統計の作成状況、国際統計制度について解説する。	佐藤康仁	×	×
	2	公的統計調査の実際	調査の企画、調査の実施、調査票の受付・入力、データ処理、公表とデータ保存について解説する。	佐藤康仁	○	○
	3	公的統計の基礎知識	公的統計に用いる主な用語及び統計指標について解説する。	佐藤康仁	○	○
	4	公的統計の利用	公的統計を利用する際の資料の種類、統計情報の検索、統計利用の留意点について解説する。	佐藤康仁	○	○
	5	公的統計の二次利用	公的統計の二次利用と法律、利用条件、手続きの概要、オーダーメイド集計、33条申請について解説する。	佐藤康仁	○	○
	6	匿名データの使い方	データの特徴、データ説明書の読み方、データ形式、統計分析アプリケーションについて解説する。	佐藤康仁	○	○
	7	公的統計を利用した研究(1)	公的統計を利用した研究論文(英文)を講読して、ディスカッションを行う。	佐藤康仁	○	×
8	公的統計を利用した研究(2)	公的統計を利用した研究論文(英文)を講読して、ディスカッションを行う。	佐藤康仁	○	×	
評価方法	講義における議論への参加度(30%)、レポート(70%) ＜成績評価の前提条件＞選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	「厚生統計テキストブック」厚生労働統計協会(2017)		参考書	・「公的統計の体系と見方」日本評論社(2008) ・「公的統計のマイクロデータ利用ガイド」(2015)		
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等						
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考		
社会人聴講生	◎(単独でも受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	文献検索法・文献評価法		開講日・時限	土曜日・5時限(16:20~17:50)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	佐々木八十子		担当教員	佐々木八十子		
科目概要	社会健康医学領域において、基本的なスキルの1つである文献検索の方法と、疫学、EBM(根拠に基づく医療)の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索し、批判的に吟味し、主体的に活用する方法について解説するとともに、実際の文献を用いた演習を行い理解を深める。					
到達目標	1. 各種データベースを活用して、社会健康医学に関する情報を検索するスキルを習得する。 2. 文献評価の基本を理解し、得られた文献・情報を批判的に吟味する能力を習得する。 3. 文献評価の結果を主体的に活用する能力を習得する。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	医学文献データベース(1)	イントロダクション(EBMの考え方) 医中誌Webの使い方の解説及び演習を行う。	佐々木八十子	○	○
	2	医学文献データベース(2)	PubMedとWeb of Scienceの使い方の解説及び演習を行う。	佐々木八十子	○	○
	3	臨床・研究疑問の設定と文献検索	クリニカル・クエスチョン、レビュー・クエスチョンの重要性を解説し、立てたクエスチョンの文献検索の演習を行う。 コクラン・ライブラリーの使い方を解説する。	佐々木八十子	○	○
	4	文献管理	EndNoteによる文献管理方法の解説及び演習を行う。	佐々木八十子	○	○
	5	文献評価の基本	文献評価の基本及び各種声明の解説を行う。	佐々木八十子	○	○
	6	医学論文の批判的吟味	観察研究、ケーススタディ論文の評価の解説、CASP (Critical Appraisal Skills Programm)による臨床試験論文の評価の解説及び演習を行う。	佐々木八十子	○	○
	7	システマティックレビューのバイアス評価	コクラン・レビューのROB2 (Risk of Bias2)アセスメントによる臨床試験論文の評価の解説及び演習を行う。	佐々木八十子	○	○
8	診療ガイドラインの評価	AGREE法による診療ガイドラインの評価について解説する。	佐々木八十子	○	○	
評価方法	講義の理解度を確認する小テスト・小レポート(30%)、課題レポート(70%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布		参考書	・臨床研究と疫学研究のための国際ルール集, 中山健夫, 津谷喜一郎編著, (ライフサイエンス出版) ・コクランレビューハンドブック(The Cochrane Collaboration) ・PICOから始める医学文献検索のすすめ, 小島原典子, 河合富士美編集(南江堂)		
授業時間外で行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等						
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考		
社会人聴講生	◎(単独でも受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	プレゼンテーション・ライティングスキル		開講日・時限	金曜日・4時限(14:40~16:10)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	藤本修平		担当教員	藤本修平、佐々木八十子		
科目概要	<p>研究成果の発表や研究資金獲得のためのプレゼンテーション、学術論文、報告書の執筆に当たっての効果的な技法について講義を行うとともに、演習形式でプレゼンテーションを行いスキルの獲得を指導する。 (オムニバス方式/全8回) (藤本修平/6回)論文やスライド作成のコツ、プレゼンテーションスキルに関する講義を行うとともに、プレゼンテーションを通じてスキルの指導を行う。 (佐々木八十子/2回)英文科学論文の基本的スタイルや投稿雑誌の規定に関する講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 与えられた媒体と想定される対象者に合わせて、適切な資料が作成できる。 2. 研究成果を的確により広く伝えるためのアカデミックデザインの基本を獲得する。 3. 科学論文執筆の基本を理解し、自らの執筆に活用できる。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	一般向けと学術向けの文章	読者を規定し練られた文章は人の心を動かすことを理解する。研究参加依頼文、助成金獲得など、目的に合わせた執筆を概説する。	藤本修平	○	○
	2	ポスター	A0版のポスター作製のためのTipsについて、基礎的なビジュアルマーケティングの手法を紹介しながら、近年のポスター作成の動向を解説する。	藤本修平	○	○
	3	PPTで描く	特別なソフトを使わなくても、PPTの基本機能やアドインを活用することで多彩な概念図や構造図が描けることを解説する。	藤本修平	○	○
	4	FigureとTable	同じデータのTableでも、論文とスライドでは異なったスタイルで表現することが重要であるため、Table やFigureの基本的事項を解説し、研究の理解を深める。	藤本修平	○	○
	5	英文科学論文	IMRaD形式の論文、パラグラフ展開の基本、論文引用スタイルなど、基本的項目の理解が良い論文執筆につながることを学ぶ。また、英文の基本的スタイルを解説する。	佐々木八十子	○	○
	6	投稿雑誌	投稿雑誌のAimや対象読者によって、論文のイントロダクションやディスカッションの内容は変わるため、投稿雑誌に絞り込み、投稿規定から得られる情報を論文執筆に活用するヒントを解説する。	佐々木八十子	○	○
	7	フォントと色	フォントや色彩は、人の心理に大きく作用し、多くの情報を伝達することを理解する。行間調整、一行の文字数など基本的なことから、先行研究を加味した色彩選択を概説する。	藤本修平	○	○
8	プレゼンテーション	与えられた時間内で、どの様に聴衆の関心を集めるかなどのヒントだけでなく、自分らしさを活かしたプレゼンテーションを目指してゆくために、必要なスキルを解説し、演習を行う。	藤本修平	○	○	
評価方法	各講義ごとに課すレポート(60%)、最終発表(40%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布	参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。			
授業時間外で行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等						
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考		
社会人聴講生	◎(単独でも受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	疫学概論		開講日・時限	土曜日・4時限(14:40~16:10)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	小島原典子		担当教員	小島原典子、佐藤康仁		
科目概要	人間集団を対象とする疫学研究の意義を学ぶとともに、自分の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。後半からは実際の論文を読んで批判的吟味のポイントについて解説を行う。 (オムニバス方式/全8回) (小島原典子、佐藤康仁/4回)(共同) 临床上、または公衆衛生上の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。 (小島原典子/4回)疫学論文を読んで研究デザイン別に批判的吟味のポイントについて解説を行う。					
到達目標	1. 研究デザインと疫学的尺度について説明できる。 2. メタアナリシスの論文を読み批判的吟味ができる。 3. バイアスと研究の限界について説明できる。 4. 研究デザインごとに論文を批判的に読むことができる。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	疫学概論	疫学と研究倫理の変遷について解説し、本科目の進め方の説明を行う。	小島原典子、佐藤康仁	○	○
	2	研究デザイン	研究デザインと疫学的尺度について解説する。	小島原典子、佐藤康仁	○	○
	3	偶然とバイアス	因果関係の判定、研究の限界と交絡の制御について解説する。	小島原典子、佐藤康仁	○	○
	4	疫学研究のデザイン(1)	横断研究(診断又はスクリーニング)の論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子、佐藤康仁	○	○
	5	疫学研究のデザイン(2)	症例対照研究(リスク)の論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子	○	○
	6	疫学研究のデザイン(3)	コホート研究(予後)の論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子	○	○
	7	疫学研究のデザイン(4)	介入研究(無作為比較試験)の論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子	○	○
8	疫学研究のデザイン(5)	システマティックレビューについて解説し、メタアナリシスの論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子	○	○	
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	医学がわかる疫学 第3版 新興医学出版社		参考書	・臨床研究と疫学研究のための国際ルール集 中山健夫・津谷喜一郎編著(2008) ライフサイエンス出版 ・臨床研究と疫学研究のための国際ルール集Part2 中山健夫・津谷喜一郎編著(2016) ライフサイエンス出版		
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	「疫学研究・臨床研究特論」の受講にあたっては本科目の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考		
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	疫学研究・臨床研究特論		開講日・時限	土曜日・5時限(16:20~17:50)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 1		
開講時期	1年次・後期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	田原康玄		担当教員	田原康玄		
科目概要	リサーチクエスションの設定から研究仮説の立案、研究デザインの構築、データの収集、データ解析、学術的な結果の解釈まで、疫学研究・臨床研究の方法と技術について演習を通じて指導する。					
到達目標	1. 疫学研究・臨床研究を立案し、適切な研究プロトコルを組み立てられる。 2. 適切なデータ解析方法を選択し、基本的な解析が行える。 3. 解析結果を適切に解釈できる。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	研究課題の設定	最新の研究動向を踏まえ、解決すべき疫学研究・臨床研究課題を設定する。	田原康玄	×	×
	2	研究仮説の立案	学術論文の抄録等から、最新の研究動向を把握した上で研究仮説を立案する。	田原康玄	×	×
	3	研究デザインの構築	正しい解を得るために必要な研究デザインを構築する。	田原康玄	×	×
	4	疫学研究の実際と理解(1)	主として既存のデータを活用し、実践的にデータを分析する①。	田原康玄	×	×
	5	疫学研究の実際と理解(2)	主として既存のデータを活用し、実践的にデータを分析する②。	田原康玄	×	×
	6	臨床研究の実際と理解(1)	研究課題に沿った文献等のクリティカルリーディングから臨床研究の知見を深める①。	田原康玄	×	×
	7	臨床研究の実際と理解(2)	研究課題に沿った文献等のクリティカルリーディングから臨床研究の知見を深める②。	田原康玄	×	×
8	結果の解釈	分析結果とその臨床疫学的意義について解釈し、研究の限界を考察する。	田原康玄	×	×	
評価方法	演習や討論への積極的な参加度(70%)、レポート(30%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布		参考書	なし		
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:演習で討議した内容を振り返り、レポートを作成すること。					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「疫学概論」の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	×(受入なし)		科目等履修生 選考方法	—(受入なし)		
社会人聴講生	×(受入なし)		社会人聴講生 選考方法	—(受入なし)		
備考						

科目名	臨床研究概論		開講日・時限	金曜日・5時限(16:20~17:50)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	小島原典子		担当教員	小島原典子、佐藤康仁		
科目概要	臨床研究を行うために必要な研究デザイン、主要評価項目、対象者の選出方法、研究倫理、医療統計学など基本的な医学研究方法論について講義を行う。 (オムニバス方式/全8回) (小島原典子/4回)臨床研究に必要な医学研究デザイン及びCONSORT、STROBEを用いた研究結果の公表について講義を行う。 (佐藤康仁/4回)臨床研究に必要な統計の理論や特性、及び各統計手法について、解説し、講義を行う。					
到達目標	1. 研究の構想と文献検索について概説できる。 2. 臨床研究のデザインについて、分類とそれぞれの特徴を説明できる。 3. 統計解析について、どのような時にどのような手法を使うのか説明できる。 4. CONSORTとSTROBEについて、内容を説明することができる。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	研究の構想	EBM(Evidence-Based Medicine)、PICO、PECO、文献検索、文献データベースについて解説する。	小島原典子	○	○
	2	アウトカム指標と解析計画(1)	観察研究、コホート研究の特徴、症例対照研究の特徴、相対危険、奇与危険について解説する。	小島原典子	○	○
	3	アウトカム指標と解析計画(2)	介入研究、ランダム割り付け、盲検化、クロスオーバー・デザイン、NNTについて解説する。	小島原典子	○	○
	4	倫理的配慮	ヘルシンキ宣言、倫理指針、個人情報保護法、倫理審査委員会、インフォームド・コンセントについて解説する。	佐藤康仁	○	○
	5	研究計画書の作成	主任研究者、研究事務局、適格基準・除外基準、サンプルサイズ、説明・同意文書について解説する。	佐藤康仁	○	○
	6	統計解析(1)	統計学的推論、変数の特性、統計手法の選択、t検定、カイ2乗検定について解説する。	佐藤康仁	○	○
	7	統計解析(2)	多変量解析、説明変数の選択、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、コックス回帰分析について解説する。	佐藤康仁	○	○
	8	研究結果の公表	研究成果公表の義務、論文の構成、CONSORT、STROBE、査読対応について解説する。	小島原典子	○	○
評価方法	講義における議論への参加度(60%)、試験(40%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	「臨床研究の教科書ー研究デザインとデータ処理のポイント」川村孝 著 医学書院(2016) 臨床疫学 EBM実践のための必須知識 第3版(2016)福井次矢(翻訳)メディカルサイエンスインターナショナル		参考書	なし		
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深めること。					
履修要件等	「疫学・ゲノム疫学特論」の受講にあたっては本科目の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考		
社会人聴講生	△(科目等履修生がいれば受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	疫学・ゲノム疫学特論		開講日・時限	土曜日・3時限(13:00~14:30)		
必修区分	選択		使用教室	講義室 3		
開講時期	1年次・後期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	田原康玄		担当教員	田原康玄、栗山長門、木下和生、寺尾知可史		
科目概要	<p>我が国の代表的なコホート・ゲノムコホートを事例に、疫学・ゲノム疫学研究の方法論について実践的に解説する。 (オムニバス方式／全8回) (田原康玄／4回)ながはまコホートを例に、多因子疾患を中心として研究テーマの設定、テーマに応じたデータ集取や解析方法、結果の解釈方法、共同研究の立案・運営方法について解説する。国内の主要なコホートから研究者を招き、コホート毎に異なるデータ集取や研究の戦略・方針について解説する。 (栗山長門／2回)我が国における多施設共同コホート研究を例に、研究テーマの設定、テーマに応じたデータ集取や解析方法、結果の解釈方法、共同研究の立案・運営方法について解説する。 (木下和生／1回)コホートでの検体収集・管理、ゲノム解析、データベース化、データ管理について解説する。 (寺尾知可史／1回)比較的低頻度な疾患のゲノムコホート研究について、研究テーマの設定、テーマに応じたデータ集取や解析方法、結果の解釈方法について解説する。</p>					
到達目標	<p>1. 我が国のコホート・ゲノムコホートの代表例とそれぞれの特性について理解する。 2. 研究目的に応じたコホートを設定するための基礎的知見を得る。 3. コホートデータの解析方法や結果解釈について事例から理解を深める。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	地域コホート研究の基礎	地域コホートにおける研究テーマの設定とテーマに応じたコホート構築のための理論を解説する。	田原康玄	×	×
	2	地域コホート研究の実践(1)	ながはまコホートを例に、研究テーマに応じた臨床情報の収集やその解析方法、結果の解釈方法について解説する。	田原康玄	×	×
	3	地域コホート研究の実践(2)	コホート研究に造詣の深い研究者を招聘し、事例に基づいてコホート研究の実際を学ぶ①。	田原康玄	×	×
	4	地域コホート研究の実践(3)	コホート研究に造詣の深い研究者を招聘し、事例に基づいてコホート研究の実際を学ぶ②。	田原康玄	×	×
	5	多施設共同研究の基礎	多施設共同研究における研究テーマの設定とテーマに応じた共同研究体制構築・運営のための理論を解説する。	栗山長門	×	×
	6	多施設共同研究の実践	J-MICC研究を例に、研究テーマに応じた臨床情報の収集やその解析方法、結果の解釈方法について解説する。	栗山長門	×	×
	7	コホート研究におけるゲノム解析	コホートでの検体収集・管理、ゲノム解析、データベース化、データ管理について解説する。	木下和生	×	×
8	コホートの事例と成果	比較的低頻度な疾患のゲノムコホート研究について、研究テーマの設定からデータ解析までを解説する。	寺尾知可史	×	×	
評価方法	<p>講義における議論への参加度(20%)、レポート(80%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布	参考書	なし			
授業時間外で行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:演習で討議した内容を振り返り、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「臨床研究概論」の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	×(受入なし)		科目等履修生 選考方法	—(受入なし)		
社会人聴講生	×(受入なし)		社会人聴講生 選考方法	—(受入なし)		
備考						

科目名	医療統計学概論		開講日・時限	土曜日・6時限(18:30~20:00)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(前半・後半)		単位数	2単位(90分×15コマ)		
科目責任者	中谷英仁		担当教員	中谷英仁、佐藤洋子		
科目概要	<p>人を対象とした臨床、疫学研究では、個体差に伴う不確実性が付きまとい、統計的方法が科学の議論のためにしばしば重要な役割を果たす。医学研究の計画及びデータ解析を行う上で必要となる医療統計学の基本的考え方(統計的仮説検定、信頼区間、最尤推定など)について講義を行うとともに、数理・確立計算に関する演習を行う。</p> <p>なお講義については中谷、演習は中谷・佐藤のオムニバス・共同方式にて授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全15回)</p> <p>(中谷英仁／8回) 統計学全般に関する講義を行う。</p> <p>(中谷英仁、佐藤洋子／7回)(共同) 数理・確率計算に関する演習を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 基本的な統計手法を題材に、統計的方法の考え方、原理が理解できる。</p> <p>2. 事例に挙げる実際の臨床・疫学研究と、統計的方法の関わりが理解できる。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	導入	医学研究における統計学の役割を学ぶ。	中谷英仁	○	○
	2	確率の導入(1)	確率の導入を行い、診断法・コホート・ケースコントロール研究の例を通して、確率計算を学ぶ。	中谷英仁	○	○
	3	確率の導入(2)	確率計算を演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	4	離散分布(1)	統計的推測の基礎となる概念である確率変数と確率分布を導入し、離散確率分布を通して、期待値や分散、同時・周辺分布などの概念を学ぶ。	中谷英仁	○	○
	5	離散分布(2)	離散確率分布に関する期待値や分散、同時・周辺分布などの数理・数値計算を演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	6	連続分布(1)	連続確率分布を通して、期待値、分散、共分散、同時・周辺分布、条件付き分布などの概念を学ぶ。	中谷英仁	○	○
	7	連続分布(2)	連続確率分布に関して、期待値、分散、共分散、同時・周辺分布、条件付き分布などの数理・数値計算を演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	8	連続分布の標本分布論(1)	統計的推測の基本的な枠組みを学習する。正規標本に対する標本分布論の概略を学ぶ。	中谷英仁	○	○
	9	連続分布の標本分布論(2)	正規標本に対する標本分布論の数理・数値計算を演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	10	統計的仮説検定(1)	統計的検定の基本的な考え(P値、帰無仮説、対立仮説、検出力、第一種の過誤、第二種の過誤など)を学ぶ。	中谷英仁	○	○
	11	統計的仮説検定(2)	統計的検定の基本的な考え(P値、帰無仮説、対立仮説、検出力、第一種の過誤、第二種の過誤など)の数値計算を演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	12	推定:信頼区間(1)	統計的推測(点・区間推定)の基本、信頼区間と検定の関連を学ぶ。	中谷英仁	○	○
	13	推定:信頼区間(2)	推定値についての信頼区間と検定の関連に関する数理・数値計算を演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	14	推定:最尤推定(1)	正規分布モデル、二項分布モデルを例に、重要な推定法である最尤法を学ぶ。	中谷英仁	○	○
15	推定:最尤推定(2)	正規分布モデル、二項分布モデルに関する最尤法の数理・数値計算を演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○	

評価方法	試験(20%)、レポート(80%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。		
テキスト	講義内容に応じた資料を配布	参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・確率と統計(現代基礎数学)、朝倉書店、2006、藤澤洋徳 ・統計学入門(基礎統計学 I)、東京大学出版会、1991、東京大学教養学部統計学教室
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。		
履修要件等	「医療統計学特論」の受講にあたっては本科目の単位修得を必須とする。		
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考
備考			

科目名	医療統計学特論		開講日・時限	土曜日・※5時限(16:20~17:50)		
必修区分	選択		使用教室	講義室 1		
開講時期	1年次・後期(前半・後半)		単位数	2単位(90分×15コマ)		
科目責任者	中谷英仁		担当教員	中谷英仁、佐藤洋子		
科目概要	<p>実際の医学研究においては、複数の変数を対象にそれらの関連等を検討するため、具体的な研究事例を基に、統計的な概念・考え方がどのように拡張・適用されているかについて講義するとともに、統計解析用ソフトウェアを用いた演習も併せて行う。 なお講義については中谷、演習は中谷・佐藤のオムニバス・共同方式にて授業を行う。 (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (中谷英仁/11回) 回帰分析、生存時間解析、経時測定データ解析に関する講義を行う。 (中谷英仁、佐藤洋子/4回)(共同) 回帰分析、生存時間解析、経時測定データ解析に関する演習を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 複数の変数を対象とした統計的方法の考え方、原理が理解できる。 2. 統計ソフトウェアを用いて、応用的な統計処理を実践できる。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	線形回帰分析(1)	最小二乗法、回帰分析のための基礎的な技術(ダミー変数、交互作用など)について解説する。	中谷英仁	○	○
	2	線形回帰分析(2)	線形推測の行列表現の説明を行い、回帰診断法について解説する。	中谷英仁	○	○
	3	線形回帰分析の演習	回帰分析に関するデータ解析の演習を行う。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	4	一般化線形モデル(1)	最尤推定量、Fisher情報行列、回帰診断法について解説する。	中谷英仁	○	○
	5	一般化線形モデル(2)	ロジスティック回帰分析、ポワソン回帰分析について解説する。	中谷英仁	○	○
	6	一般化線形モデルの演習	回帰分析に関するデータ解析の演習を行う。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	7	Mantel-Haenszel型推測	Mantel-Haenszel検定、Breslow-Day検定について解説する。	中谷英仁	○	○
	8	条件付きロジスティック回帰	Mantel-Haenszel推定、条件付き最尤法について解説する。	中谷英仁	○	○
	9	生存時間データの解析(1)	パラメトリックモデルの推測、Kaplan-Meier推定量について解説する。	中谷英仁	○	○
	10	生存時間データの解析(2)	ログランク検定、Cox比例ハザードモデルについて解説する。	中谷英仁	○	○
	11	生存時間解析の演習	生存時間解析に関するデータ解析演習を行う。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	12	欠測データのメカニズムと補完方法	欠測メカニズムMCAR, MAR, MNARに関する説明を行い、単一、多重代入法について解説する。	中谷英仁	○	○
	13	経時測定データの解析法(1)	一般線形混合効果モデル、平均構造と分散共分散構造について解説する。	中谷英仁	○	○
	14	経時測定データの解析法(2)	MNARに対する解析方法について解説する。	中谷英仁	○	○
15	経時測定データ解析の演習	経時測定データ解析に関するデータ解析演習を行う。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○	

評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全15コマ中10コマ以上)を条件とする。		
テキスト	講義内容に応じた資料を配布	参考書	・自然科学の統計学(基礎統計学)、東京大学出版会、1992、東京大学教養学部統計学教室 ・一般化線形モデル入門 原著第2版、共立出版、2008、Annette J.Dobson, 田中 豊他(訳)
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。		
履修要件等	本科目の受講にあたっては「医療統計学概論」の単位修得を必須とする。 「臨床試験解析学」、「観察研究解析学」、「健康・医療ビッグデータ特論」の受講にあたっては、本科目の単位を修得していることが望ましい。		
科目等履修生	○(研究生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考
社会人聴講生	○(研究生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考
備考	※前半(1~8回目)は5時限、後半(9回目以降)は6時限(18:30~20:00)に開講		

科目名	臨床試験解析学		開講日・時限	金曜日・6時限(18:30~20:00)		
必修区分	選択		使用教室	講義室 1		
開講時期	2年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	中谷英仁		担当教員	中谷英仁、佐藤洋子		
科目概要	<p>臨床試験における実施の流れ、ランダム化の意義、試験デザイン、サンプルサイズ計算の方法、中間解析、データ管理及びモニタリング等について講義、演習を行う。 なお講義については中谷、演習は中谷・佐藤のオムニバス・共同方式にて授業を行う。 (オムニバス方式・共同(一部)/全8回) (中谷英仁/6回) 臨床試験の統計関連部分に関する講義を行う。 (中谷英仁、佐藤洋子/2回)(共同) サンプルサイズ計算に関する演習を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 臨床試験の計画、実施、解析、報告するための統計学関連事項が理解できる。 2. 実際の臨床試験の事例を基に、統計学的技術の使用法が理解できる。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	臨床試験概論	臨床試験実施の流れ、GCP・臨床研究法への適応、Consortガイドラインの遵守について事例を踏まえて解説する。	中谷英仁	○	○
	2	ランダム化	二群間のランダム化試験に関し、ランダム化の意義に関して解説し、併せて単群試験や観察研究との違いも解説する。	中谷英仁	○	○
	3	Estimand	主要評価項目、解析集団、ITTの原則、Estimandさらには同等性・非劣性試験の違いも概説する。	中谷英仁	○	○
	4	試験デザイン	統計学的な試験デザインについて解説する。	中谷英仁	○	○
	5	サンプルサイズ設計(1)	主要評価項目が正規、二項分布に従う場合のサンプルサイズ設計を解説・演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	6	サンプルサイズ設計(2)	主要評価項目が生存時間関連分布に従う場合のサンプルサイズ設計を解説・演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	7	中間解析	群逐次検定と α 消費関数法、確率打ち切り法、独立データモニタリング委員会について概説する。	中谷英仁	○	○
	8	データ管理及びモニタリング	臨床試験データの管理手法、統計学的データモニタリングに関して解説する。	中谷英仁	○	○
評価方法	<p>レポート(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布		参考書	<p>・臨床試験デザイン—ベイズ流・頻度流の適応的方法、2014、メディカル・パブリケーションズ、尹國聖(著)、手良向聡、大門貴志(訳) ・サンプルサイズの設計、2010、山口拓洋</p>		
授業時間外で行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「医療統計学特論」の単位を修得していることが望ましい。					
科目等履修生	○(研究生がいる場合のみ受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考		
社会人聴講生	○(研究生がいる場合のみ受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	観察研究解析学		開講日・時限	金曜日・6時限(18:30~20:00)		
必修区分	選択		使用教室	講義室 1		
開講時期	2年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	中谷英仁		担当教員	中谷英仁、佐藤洋子		
科目概要	<p>臨床・疫学研究にて、臨床試験のような実験研究が行えない場合に、諸種の観察研究が実施されているが、観察研究デザイン特有の問題への対処(統計的モニタリング、感度分析)が必要な場合が多いため、観察研究の解析(研究)デザイン、統計解析の方法について講義、演習を行う。</p> <p>なお講義については中谷、演習は中谷・佐藤のオムニバス・共同方式にて授業を行う。 (オムニバス方式・共同(一部)／全8回) (中谷英仁／4回) 観察研究解析学全般に関する講義を行う。 (中谷英仁、佐藤洋子／4回)(共同) ロジスティック回帰モデル、傾向スコアによる調整、Cox回帰モデル、混合効果モデルの解析演習を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 観察研究の計画、実施、解析、報告するための統計学関連事項が理解できる。</p> <p>2. 実際の臨床・疫学研究の事例を基に、統計学的技術の使用法が理解できる。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	観察研究の開始と報告	観察研究に関して、研究デザインごとの医学研究指針への適応、報告ガイドラインの遵守について事例を踏まえて解説する。	中谷英仁	○	○
	2	解析デザイン	効果と予測、非実験的な解析(研究)デザインについて解説する。解析デザインを目的、起点、集団、取得予定データ等の観点から解説する。	中谷英仁	○	○
	3	二値データの解析、診断法	割合の推定、二項検定、ロジスティック回帰モデル分析、ROCによる予測性能評価について解説・演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	4	交絡の調整解析	観察研究データにおける効果推定に関して、傾向スコアを用いたマッチング、層別、IPWIによる方法を解説・演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	5	生存時間データの解析	Kaplan-Meier曲線、ログランク検定、Cox比例ハザード回帰モデル分析について解説・演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	6	相関のあるデータの解析	個人内の相関のあるデータを解析するために、対応のあるt検定、Macnemar検定、経時データ解析について解説・演習する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	○
	7	クラスター分析	Entityが広い集団の像を捉えるために必要な、階層・非階層クラスター分析について解説する。	中谷英仁	○	○
	8	データベース研究	近年盛んになったデータベース研究に関して、データ駆動により仮説を生成・検討する方法に関して解説する。	中谷英仁	○	○
評価方法	<p>レポート(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布	参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・統計的因果推論、朝倉書店、2015、岩崎学 ・サバイバルデータの解析—生存時間とイベントヒストリデータ、近代科学社、2010、赤澤 宏平、柳川 堯 ・経時データ解析、朝倉書店、2015、船渡川伊久子、船渡川 隆 			
授業時間外で行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「医療統計学特論」の単位を修得していることが望ましい。					
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考			
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考			
備考						

科目名	環境健康科学・産業衛生学概論		開講日・時限	土曜日・3時限(13:00~14:30)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(前半・後半)		単位数	2単位(90分×15コマ)		
科目責任者	天笠 崇		担当教員	天笠 崇、谷 幸則		
科目概要	<p>自然環境や社会環境といった環境と健康に関する科学の到達点、特に職場環境と労働者の健康の保持・増進に関する産業衛生学の過去と現在について学び、持続可能な開発目標(SDGs)という未来に向け社会健康医学の専門家に今求められる基礎知識について講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (天笠崇/12回)社会環境と健康、産業衛生学(労働衛生管理、職業性疾病预防、メンタルヘルス対策等)について講義を行う。 (谷幸則/3回)環境汚染と健康影響、わが国の代表的な公害等、環境健康科学について講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 環境が人の健康に影響を及ぼし得ることを理解し具体例で説明できる。 2. 労働衛生の現況と三管理一教育について具体的事例を挙げて説明できる。 3. 環境と職場における健康へのリスクのアセスメントとマネジメント法について説明できる。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	自然環境と健康(1)	環境健康科学のオリエンテーション、地球規模の環境破壊(地球温暖化、酸性雨、砂漠化、オゾン層破壊等)と健康影響について解説する。	谷 幸則	○	○
	2	自然環境と健康(2)	環境汚染(大気・水質・土壌・騒音・放射線・環境化学物質等)と健康影響並びに環境保全について解説する。	谷 幸則	○	○
	3	自然環境と健康(3)	わが国の代表的な公害と起きた健康影響と対策、未来の環境健康科学にとっての教訓について解説する。	谷 幸則	○	○
	4	自然環境と健康(4)	生物環境と、代表的な感染症及びその対策、新興・再興感染症とそれらの制御、外来種問題や森林破壊と健康等について解説する。	天笠 崇	○	○
	5	社会環境と健康(1)	文化・文明・宗教や政治や社会保障制度と健康影響(感染症、戦争・紛争・テロ、生活習慣病、精神疾患等)について講義する。	天笠 崇	○	○
	6	社会環境と健康(2)	都市化、少子高齢化や核家族化、格差と貧困や女性の社会進出(非婚・晩婚化等)といった主に社会環境の変化と健康影響(発達の跛行、高齢者介護問題、引きこもり、健康格差、災害に脆弱な都市等)、並びに健康の保持・増進対策について解説する。	天笠 崇	○	○
	7	社会環境と健康(3)	核家族や単身(高齢)世帯の増加といった多様な家族形態の増加、女性の社会進出(共働き家庭)の増加(非婚・晩婚化等)、家族レジリエンスの低下(子育てや介護力の低下等)といった主に家庭環境の変化と健康影響、並びにその対策について講義する。	天笠 崇	○	○
	8	社会環境と健康(4)	神経発達症の増加を初めとした児童生徒の健康状態の変化、過度な競争、教職員の多忙化といった主に学校環境の変化と健康影響(いじめ、不登校、教職員のメンタル不全)、それらに対する対策について講義する。	天笠 崇	○	○
	9	社会環境と健康(5)	産業衛生学のオリエンテーション、就業・産業構造の変化と健康影響並びに労働衛生の現況について講義する。	天笠 崇	○	○
	10	労働衛生管理の基本	労働衛生管理の基本、健康確保対策、快適職場環境の形成について講義する。	天笠 崇	○	○
	11	職業性疾病预防について(1)	リスクアセスメント・リスクマネジメント・リスクコミュニケーション、代表的な有害物質と健康影響並びにそれらの制御について講義する。	天笠 崇	○	○
	12	職業性疾病预防について(2)	粉じん、電離放射線、酸欠、高気圧、騒音、振動、腰痛、熱中症などと予防対策について講義する。	天笠 崇	○	○
13	メンタルヘルス対策について	一次予防(ストレスチェック制度、長時間労働対策)、二次予防(早期発見・早期適切な処遇)、三次予防(職場の復帰支援)について講義する。	天笠 崇	○	○	

	14	作業環境の測定に基づく作業環境管理について	作業環境の測定方法、結果の評価と事後措置、局配装置などについて講義する。	天笠 崇	○	○
	15	最近のトピックスについて	過労死vs過労自殺、「働き方改革」の内容、両立支援、第13次防止計画、持続可能な開発目標(SDGs)などについて講義する。	天笠 崇	○	○
評価方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、ディスカッション参加度・発言内容(20%) ＜成績評価の前提条件＞必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	NEW予防医学・公衆衛生学 (南江堂)、令和2年版労働衛生のしおり(中災防)		参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・沈黙の春(新潮文庫) ・感染症と文明(岩波新書) ・病気の社会史(岩波現代文庫) ・銃・病原菌・鉄(上)(下)(草思社文庫) ・四大公害病(中公新書) ・水俣病は終わっていない(岩波新書) ・健康格差(日本評論社) ・雇用身分社会の出現と労働時間(桜井書店) ・ファクトフルネス(日経BP) ・サステイニング・ライフ(東海大学出版部) 		
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深めること。					
履修要件等	「環境健康科学・産業衛生学特論」の受講にあたっては本科目の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考			
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考			
備考						

科目名	環境健康科学・産業衛生学特論		開講日・時限	土曜日・2時限(10:40~12:10)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 1		
開講時期	1年次・後期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	天笠 崇		担当教員	天笠 崇、雨谷敬史		
科目概要	環境健康科学・産業衛生学概論で学んだ内容を基に、具体的な有害物質の影響と対策、労働環境の改善の手法等について演習を行う。 (オムニバス方式/全8回) (天笠 崇/5回)本科目のオリエンテーション、ストレスチェック制度の応用と職場巡視を通じた職場環境改善方法について講義、演習を行う。 (雨谷敬史/3回)リスク・アナリシス、具体的な有害物質の影響と対策、県における疾病予防対策の方法に関する内容について講義を行う。					
到達目標	1. 代表的な有害物質と職場環境の健康に与える影響を理解し対策について立案できる。 2. 県内の疾病統計について知り予防対策を立案できる。 3. ストレスチェックの実際を知り結果に基づいて対策を立てられる。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	本科目について	本科目の全体像について講義し、環境健康科学・産業衛生学概論で学んだ内容を踏まえ予防対策について体系的に学ぶ。	天笠 崇	○	○
	2	リスク・アナリシスについて	リスク・アセスメント、リスク・マネジメント、リスク・コミュニケーションについて、それらに対する県の取り組みについて講義する。	雨谷敬史	○	○
	3	健康障害防止対策について	代表的な有害物質と職場環境について、作業環境管理・作業管理について県の事例を交えながら講義する。	雨谷敬史	○	○
	4	有害物質による健康障害の実例	これまでに職場環境等で問題となったベンゼン、アスベスト、1,2-ジクロロプロパンなどの有害化学物質の健康影響について学ぶ。	雨谷敬史	○	○
	5	ストレスチェック制度の実際(1)	標準的なストレスチェックを受検し、個人結果と集団結果に基づいて具体的な対応プランを立てる。	天笠 崇	○	×
	6	ストレスチェック制度の実際(2)	集団結果に基づいて立てた具体的なで効果的な実践方法として、参加型職場環境改善やストレスマネジメントプログラムについて演習しながら学ぶ。	天笠 崇	×	×
	7	職場巡視	複数業種の職場を対象に模擬的に職場巡視を行い、リスク要因とその対策についてディスカッションする。	天笠 崇	×	×
8	発表会	あらかじめ選んだ有害物質が職場環境について、リスクアセスメントの方法を選択し、具体的なマネジメント計画を立てた内容について発表する。	天笠 崇	○	×	
評価方法	レポート(30%)、ディスカッション参加度・発言内容(30%)、演習への参加度・発表内容(40%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布	参考書	・NEW予防医学・公衆衛生学(南江堂) ・よくわかる専門基礎講座 公衆衛生 第11版(金原出版)			
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:演習で討議した内容を振り返るとともに、参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「環境健康科学・産業衛生学概論」の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考			
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考			
備考						

科目名	生活習慣病(生活習慣・遺伝子・環境)		開講日・時限	金曜日・5時限(16:20~17:50)	
必修区分	選択		使用教室	演習室 3	
開講時期	1年次・後期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)	
科目責任者	臼井 健		担当教員	臼井 健、菅原 照、森 潔、溝田友里	
科目概要	<p>食事、運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣により発症、進行する生活習慣病の概要と疫学的知見、予防のための取組について講義を行う。 (オムニバス方式/全8回) (臼井 健/2回)肥満、腸内細菌と生活習慣病との関係に関する講義を行う。 (菅原 照/2回)高血圧、糖尿病、脂質異常における生活習慣、遺伝子、環境との関係に関する講義を行う。 (森 潔/2回)腎疾患と生活習慣との関係に関する講義を行う。 (溝田友里/2回)特定健診、特定保健指導による生活習慣の改善支援に関する講義を行う。</p>				
到達目標	<p>1. 主な生活習慣が疾患に及ぼす影響を環境・遺伝子の視点を含めて説明できる。 2. 特定健診と特定保健指導における生活習慣の意義とその改善支援を説明できる。 3. ヘルスプロモーションの視点から生活習慣と生活習慣病を説明できる。</p>				
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向 オンデマンド
	1	腎疾患	腎疾患と生活習慣の関係、食事療法による透析導入の回避について解説する。	森 潔	○ ×
	2	肥満	肥満等の生活習慣病における生活習慣と遺伝子の関係について解説する。	臼井 健	○ ×
	3	高血圧・糖尿病・脂質異常(1)	代表的な生活習慣病における生活習慣と遺伝子、環境の関係(高血圧)について解説する。	菅原 照	○ ×
	4	高血圧・糖尿病・脂質異常(2)	代表的な生活習慣病における生活習慣と遺伝子、環境の関係(糖尿病、脂質異常)について解説する。	菅原 照	○ ×
	5	リスクファクターパラドックス	生活習慣病による寿命短縮が逆転する、リスクファクターパラドックスの病態について解説する。	森 潔	× ×
	6	腸内細菌	腸内細菌と生活習慣病について解説する。	臼井 健	○ ×
	7	生活習慣と健康、ヘルスプロモーション	生活習慣と健康、疾患との関係や、ヘルスプロモーションのあり方について解説する。	溝田友里	○ ×
8	特定健診と特定保健指導	特定健診と特定保健指導からみた生活習慣の意義とその改善支援について解説する。	溝田友里	○ ×	
評価方法	<p>毎回の小レポート(60%)、全体を通してのレポート(40%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>				
テキスト	講義内容に応じて資料配布	参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示		
授業時間外で行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>				
履修要件等					
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考		
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考	本領域に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。				

科目名	健康情報学		開講日・時限	金曜日・3時限(13:00~14:30)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 1		
開講時期	1年次・後期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	山本精一郎		担当教員	山本精一郎、溝田友里、中山健夫		
科目概要	<p>疫学やEBM(根拠に基づく医療)を基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、様々な情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法について講義、演習を行う。 (オムニバス方式/全8回) (山本精一郎/6回)健康情報の評価、様々な情報の特徴について講義を行うとともに、具体的な事例を用いた演習を通じ効果的な健康情報の提供方法を指導する。 (中山健夫/1回)診療ガイドラインについて講義を行う。 (溝田友里/1回)厚生労働省の情報提供について講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 疫学・EBMの知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。 2. マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で、各人の意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。 3. 意思決定に困難を感じている人々への真摯な理解と援助に役立てるスキルを体得する。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	健康情報の評価(1)	疫学やEBMの知識を基に、健康情報の評価方法を講義する。	山本精一郎	×	×
	2	健康情報の評価(2)	健康情報の評価法に基づき、具体的なテーマについて健康情報の評価を行う(演習)。	山本精一郎	○	○
	3	健康情報の評価(3)	健康情報の評価法に基づいて健康情報の評価を行ったテーマについて、リコメンデーションを作成し、報告を行う(演習)。	山本精一郎	○	○
	4	診療ガイドライン(エビデンスの集約から意思決定支援へ)	質の高い医療情報の集約・共有・普及、根拠である診療ガイドラインの作成法、評価を知り、コミュニケーションツールの利用を概説する。	中山健夫	○	○
	5	国立がん研究センターがん情報サービスについて	国立がん研究センターがん対策情報センターのがん情報サービスについて紹介し、健康情報の提供の仕方について議論する。	山本精一郎	○	○
	6	厚生労働省の情報提供について	厚生労働省等、国の立場からの健康に関する情報提供について知る。	溝田友里	○	○
	7	メディアとインターネット	様々なメディアやインターネットにより発信された健康情報の特徴について理解し、一般の方に利用の仕方を教えられるようになる。	山本精一郎	○	○
	8	健康情報の発信	これまで学習したことを応用し、健康情報の発信を行う。	山本精一郎	×	×
評価方法	<p>演習における議論の参加(30%)、健康情報の発信(40%)、レポート(30%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じて資料配布		参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。		
授業時間外で行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等						
科目等履修生	○(研究生がいる場合のみ受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考		
社会人聴講生	○(研究生がいる場合のみ受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	ヘルスコミュニケーション概論		開講日・時限	土曜日・5時限(16:20~17:50)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	山本精一郎		担当教員	山本精一郎		
科目概要	健康増進と疾病予防に関する情報伝達を効果的に行うためのコミュニケーション手法の基礎について講義を行う。特に対象の調査・分析に基づく適切なヘルスコミュニケーション戦略に関する理解を深める。					
到達目標	1.ヘルスコミュニケーションの基本的な概念を理解する。 2.対象に応じて異なるヘルスコミュニケーション手法の特性を理解する。 3.良好なヘルスコミュニケーションを実現するための手法を主体的に検証できる。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	ヘルスコミュニケーション事業の流れ	実例を通し、ヘルスコミュニケーション事業の流れを理解する。	山本精一郎	○	○
	2	現状分析と対象者の理解	テーマと対象を定め、既存及び新規の情報を収集し、現状や提案されている解決策を把握する方法について解説を行う。	山本精一郎	○	○
	3	コミュニケーション戦略分析とセグメンテーション	対象に対するコミュニケーションがどのように行われているかを調べるとともに、対象のセグメンテーションの方法を解説する。	山本精一郎	○	○
	4	戦略ステートメントの作成	これまでの調査を基に、対象者、目標、障壁、メリット、チャネルなどを含んだコミュニケーション戦略ステートメントの作成方法を解説する。	山本精一郎	○	○
	5	コンセプト・メッセージの作成	これまでの調査を基に、それぞれのセグメントに対する介入戦略作りのコンセプト・メッセージの作成方法を解説する。	山本精一郎	○	○
	6	プレテスト	作成したコンセプト・メッセージを想定される対象に対してテストを行い、意図の変化の測定を行うことによって、採用するコンセプト・メッセージを決定する方法について解説する。	山本精一郎	○	○
	7	クリエイティブ資料の作成	採用したコンセプトを用い、利用するチャネルに合わせたクリエイティブ資料を作成する方法について解説する。	山本精一郎	○	○
	8	資料の確定と事業の実施	作成した資料のうち、利用するものを決定し、計画に沿って事業を実施する方法を解説する。	山本精一郎	○	○
評価方法	授業における議論への参加度・発言内容(70%)、レポート(30%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布		参考書	・ヘルスコミュニケーション実践ガイド(日本評論社) ・健康行動理論による研究と実践(医学書院)		
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	「ヘルスコミュニケーション特論」の受講にあたっては本科目の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考		
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	ヘルスコミュニケーション特論		開講日・時限	金曜日・5時限(16:20~17:50)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 2		
開講時期	2年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	溝田友里		担当教員	溝田友里		
科目概要	ヘルスコミュニケーション概論で学んだ内容をもとに、ヘルスコミュニケーション手法やナッジ、ソーシャルマーケティングなど様々な行動科学理論を用いた、健康の維持増進のための研究や実践例について、講義、演習を行う。					
到達目標	1. ヘルスコミュニケーション手法や、ナッジ、ソーシャルマーケティングなど様々な行動科学理論のreal worldでの具体的な活用方法を理解する。 2. 対象者の健康の維持増進のための行動変容に、メディア、自治体、国などの現場で取り組む実務者の経験から、実践に必要なことを学ぶ。 3. 対象者の健康の維持増進のための行動変容を促す方法を企画・立案できる。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	禁煙・防煙への取り組み	禁煙・防煙への取り組みの実践例をもとに、健康施策や研究の企画・立案から評価までの一連の流れを解説する。	溝田友里	×	×
	2	がん検診受診勧奨(1)	がん検診受診勧奨の実践例をもとに、様々な行動科学理論の応用方法について解説する。	溝田友里	○	○
	3	がん検診受診勧奨(2)	がん検診受診勧奨の実践例をもとに、様々な行動科学理論の応用方法について解説する。	溝田友里	○	○
	4	健康情報番組の作り方(1)	健康情報番組制作者をゲストスピーカーとして招聘し、視聴者を惹きつける情報の伝え方や、番組作りの一連の流れを解説するとともに、演習を行う。	溝田友里	○	○
	5	健康情報番組の作り方(2)	健康情報番組制作者をゲストスピーカーとして招聘し、視聴者を惹きつける情報の伝え方や、番組作りの一連の流れを解説するとともに、演習を行う。	溝田友里	○	○
	6	高齢者の住みよい街づくり	社会全体での認知症予防・対策に関する国内外の最新の取り組みについて解説する。	溝田友里	○	○
	7	自治体における取り組み	自治体の担当者をゲストスピーカーとして招聘し、地域住民の健康の維持増進に関する取り組みについて解説する。	溝田友里	○	○
8	国による取り組み	国の担当者の視点に立ち、国民の健康の維持増進に関する取り組みについて解説する。	溝田友里	×	×	
評価方法	演習における議論への参加度(60%)、レポート(40%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布	参考書	・ヘルスコミュニケーション実践ガイド(日本評論社) ・健康行動理論による研究と実践(医学書院)			
授業時間外で行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「ヘルスコミュニケーション概論」の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考			
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考			
備考						

科目名	行動医科学		開講日・時限	金曜日・6時限(18:30~20:00)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	山本精一郎		担当教員	山本精一郎、天笠 崇		
科目概要	<p>行動科学理論に基づき人間の行動を科学的に理解し、健康増進への行動変容を促すための基本知識について講義を行う。 (オムニバス方式/全8回) (天笠 崇/4回)行動の生物・心理・社会学的理解について、特に認知行動療法や社会生活技能訓練(SST)と健康増進への応用の実際について講義を行う。 (山本精一郎/4回)健康行動理論モデルを用いて人間の行動を科学的に理解するための基本的知識及び行動変容を促す具体的な方法について講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 行動科学理論を理解し人間の行動を科学的に理解できる。 2. 健康増進に向けた行動変容を促すための行動変容技法を理解できる。 3. それぞれのフィールドで対象・行動・方法について計画できる。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	行動医科学とは	本科目の全体像、行動医科学の歴史と発展、行動の全人的理解、行動の生物学的理解(行動の基盤となる脳・神経内分泌・遺伝の役割、行動に作用する精神神経薬理学など)について講義する。	天笠 崇	○	○
	2	行動の心理・社会学的理解	行動の心理的理解(認知情報処理過程、性格の役割、ライフサイクル、問題の定式化など)並びに社会学的理解(個人間(対人的行動)、社会やコミュニティなどと行動との関係)について講義する。	天笠 崇	○	○
	3	行動変容の基礎理論と技法について	学習理論やストレスコーピングなどについて講義し、行動療法、認知療法、心理教育(健康教育)、社会生活技能訓練(SST)、認知行動療法について概論的に講義する。	天笠 崇	○	○
	4	行動変容の応用について	これまでに学んだ知識や技法が実際にどのように応用されているか、応用し得るかをデモンストレーションを交えながら講義する。	天笠 崇	○	○
	5	健康行動理論について	ヘルスビリーフモデルやトランスセオレティカルモデルなど、基本的な健康行動理論モデルについて講義する。	山本精一郎	○	○
	6	ヘルスコミュニケーション	医療情報の市民への伝わり方、医師患者関係、shared decision makingなどについて講義する。	山本精一郎	○	○
	7	社会と健康	社会が健康に及ぼす影響、格差と健康などを特にデジタルデバイドの面から講義を行う。	山本精一郎	○	○
8	禁煙を促す技法について	これまでの講義のまとめとして、実際に禁煙を促す方法について学び、実践できるようになる。	山本精一郎	○	○	
評価方法	<p>議論への参加度・発言内容(70%)、レポート(30%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。</p>					
テキスト	講義内容に応じて資料配布	参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・行動医学テキスト(中外医学社) ・健康行動学(メディカル・サイエンス・インターナショナル) ・健康行動理論による研究と実践(医学書院) 			
授業時間外で行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等						
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考			
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考			
備考						

科目名	健康医療社会学		開講日・時限	土曜日・4時限(14:40~16:10)		
必修区分	選択		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・後期(前半・後半)		単位数	2単位(90分×15コマ)		
科目責任者	山崎浩司		担当教員	山崎浩司		
科目概要	健康医療社会学は、現代の生老病死という医療抜きでは成立しにくい社会現象を扱う学問である。本科目では、病気の社会的側面、医師-患者関係、インフォーマルケア、健康と格差等のテーマについて、病氣行動、ラベリング、医療化といった健康医療社会学の理論を踏まえて講義するとともに、具体的な課題について討論を行う。					
到達目標	1. 健康・病気に対する医療専門職としての視点を相対化できる。 2. 現代の医療問題に専門職として、人として、どうかかわるべきかをクリティカルに考えられる。 3. 社会学的に考察・解明した結果を人々にわかりやすく伝えることができる。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	健康医療社会学とは	健康医療社会学の成り立ちや特性を学び、いかに健康・医療問題の解明に役立つのかを確認する。	山崎浩司	×	×
	2	病氣行動	人が病気になったと感じた時にとる行動について、病人役割理論等の社会学理論で考察する。	山崎浩司	○	×
	3	病の語りとNBM	病者による病の語りとそれに基づく医療であるNarrative Based Medicineについて理解する。	山崎浩司	○	○
	4	精神疾患とラベリング	精神疾患がいかに疾患として社会的に成立するのかを、ラベリング理論等の社会学理論で考察する。	山崎浩司	○	×
	5	病氣と差別	病気に対する社会的差別がいかにして生まれるのかを、スティグマ理論等の社会学理論で考察する。	山崎浩司	○	×
	6	医師-患者関係	社会学的な医師-患者関係の捉え方を学び、両者の関係やコミュニケーションのあり方を考える。	山崎浩司	○	×
	7	病気の社会的要因	病因を生物学的観点からだけでなく、社会学的観点からも捉えていくことの重要性を確認する。	山崎浩司	○	○
	8	医療化	医療の範疇になかった現象がその範疇に取り込まれていくという医療化論について理解する。	山崎浩司	○	×
	9	医療における連携・協働	医療における専門職種間や専門職-非専門職間の連携・協働について考察する。	山崎浩司	○	○
	10	インフォーマルケア	家族ケアや自助グループのケア等のインフォーマルケアについて、フォーマルケアとの対比で理解する。	山崎浩司	○	○
	11	健康と格差	社会格差や社会階層の違いと健康の関連について考察する。	山崎浩司	○	○
	12	医療施設と患者の自律性	医療施設が患者の自律性にどのような影響を及ぼすのか、施設化論等の社会学理論で考察する。	山崎浩司	○	×
	13	グローバリゼーションと医療	グローバリゼーションにより医療に関わるモノ・ヒト・情報が地球規模で流通・交錯する影響を考える。	山崎浩司	○	○
	14	健康医療社会学と理論	健康医療社会学における理論の位置づけを、医療コミュニケーションを視野に入れて確認する。	山崎浩司	○	○
15	課題のプレゼンテーション	受講者がこれまでの学びを踏まえ、健康医療社会学のテーマを選択してプレゼンテーションを行う。	山崎浩司	×	×	

評価方法	グループディスカッションにおける参加度(20%)、課題のプレゼンテーション(30%)、期末レポート(50%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全15コマ中10コマ以上)を条件とする。		
テキスト	・中川輝彦・黒田浩一郎編『(新版)現代医療の社会学—日本の現状と課題』世界思想社 ・中川輝彦・黒田浩一郎編『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房	参考書	・Graham Scambler ed. (2018) <i>Sociology as Applied to Medicine</i> . 7th ed. London: Red Globe Press.
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。		
履修要件等			
科目等履修生	◎(単独でも受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考
社会人聴講生	◎(単独でも受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考
備考			

科目名	健康・医療ビッグデータ概論		開講日・時限	土曜日・2時限(10:40~12:10)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	栗山長門		担当教員	栗山長門、山本博之、一原直昭、平原憲道、隈丸 拓、宮田裕章		
科目概要	<p>健診データや診療情報、介護認定データなど、医療や介護を取り巻くビッグデータの解析手法と活用方法の基本的考え方について講義を行う。 (オムニバス方式・共同(一部)／全8回) (栗山長門／1回)医療ビッグデータの特性、今後の展望、活用について講義を行う。 (山本博之／1回)医療・健康系管理データについて講義を行う。 (栗山長門、一原直昭／2回)(共同)臨床レジストリ、健康・医療ビッグデータに必要な配慮について講義を行う。 (平原憲道／1回)IoTのもたらすビッグデータについて講義を行う。 (隈丸 拓／2回)健康・医療ビッグデータによる疾病と医療提供状況の把握、ビッグデータ研究の Protokol 作成について講義を行う。 (栗山長門、宮田裕章／1回)(共同)近未来のビッグデータの方向性について講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 健康・医療ビッグデータの特性を理解する。 2. 健康・医療ビッグデータの活用とその課題を理解する。 3. 患者レジストリーやコホート検診におけるビッグデータの仕組みを理解する。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	健康・医療ビッグデータの理解と特性	健康社会を目指すうえで必要な医療ビッグデータの基本的な理解とその特性を学ぶ。	栗山長門	○	○
	2	医療・健康系管理データ	医療・健康関連ビッグデータの例として、KDB、NDB、DPC、MIDNET、海外事例、等を理解する。	山本博之	○	○
	3	臨床レジストリ	医療・健康系分野における前向きデータ収集システムである臨床レジストリについて、NCDを中心とし、歴史、現状、性質、活用例を学ぶ。	栗山長門、一原直昭	○	○
	4	IoTのもたらすビッグデータ	いわゆるウェアラブル/IoT デバイスのもたらすデータの性質とその活用事例や関連構想を理解する。認知・行動・社会科学との関連についても理解する。	平原憲道	○	○
	5	健康・医療ビッグデータによる疾病と医療提供状況の把握	健康・医療ビッグデータを用いて、疾病の発生・存在と治療の実態を把握する手法の概要と、その制約を理解する。	隈丸拓	○	○
	6	ビッグデータ研究のProtokol作成	健康・医療ビッグデータを用いた研究を計画するのに必要な留意事項を理解する。研究デザイン、倫理面の配慮と手続き、仮説・視点設定上の留意点、ビッグデータを基盤として活用する前向き研究の考え方と事例を紹介する。	隈丸拓	○	○
	7	健康・医療ビッグデータに必要な配慮	主に、(1)プライバシー保護と個人情報に関する個人の自律、(2)予測アルゴリズムの限界と、ビッグデータに基づく予測の誤用防止、差別・格差助長の防止について理解する。	栗山長門、一原直昭	○	○
	8	医療・健康ビッグデータの展開	近未来のビッグデータの方向性、海外先進事例について理解する。	栗山長門、宮田裕章	○	○
評価方法	小レポート(50%)、最終レポート(50%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	配布資料を都度用意し、適宜パワーポイントスライドを用いる。		参考書	・医療ビッグデータがもたらす社会変革、中山健夫著、21世紀医療フォーラム ・ビッグデータが医療を変える、北風政史著、中外医学社		
授業時間外で行う学修内容	予習: 配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書なども読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	「健康・医療ビッグデータ特論」の受講にあたっては本科目の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)		科目等履修生選考方法	書類選考		
社会人聴講生	×(受入なし)		社会人聴講生選考方法	—(受入なし)		
備考						

科目名	健康・医療ビッグデータ特論		開講日・時限	金曜日・3時限(13:00~14:30)		
必修区分	選択		使用教室	講義室 1		
開講時期	2年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	中谷英仁		担当教員	中谷英仁、佐藤洋子		
科目概要	<p>医療政策の立案において、根拠や手がかりもないまま実験的に政策がなされる場合があるが、既存データを利用した政策決定や問題解決に向け、データ駆動型疫学に関する講義を行う。また、データ駆動型の課題設定及びデータの集計・解釈を行う上で必要となる技術の習得を目指し、健康・医療ビッグデータを用いた演習を行う。</p> <p>なお講義については中谷、演習は中谷・佐藤のオムニバス・共同方式にて授業を行う。 (オムニバス方式・共同(一部)／全8回) (中谷英仁／1回) データ駆動型疫学に関する講義を行う。 (中谷英仁、佐藤洋子／7回)(共同) 健康・医療ビッグデータに関する実務演習を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 実践的な問題設定を基に、レセプトデータの利用、集計、解釈の方法を習得する。 2. 疫学、医療統計学を応用し、既存データから実際の問題にアプローチする方法を学習する。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	データ駆動疫学の概説	データ駆動型疫学の考え方を学ぶ。	中谷英仁	○	○
	2	政策問題からの研究設定	チームで、様々な医療政策の問題点を持ち寄り、問題解決するための研究を設定する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	×
	3	レセプトデータの利用法	使用するレセプトデータを概説し、前回設定した研究に関するエビデンスが、該当データから得られるかを検討する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	×
	4	データ切り出しの設計	データを確認しながら、どのような集団、性質のデータを切り出すかを設定する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	×
	5	集計解析	切り出されたデータの集計解析を行う。	中谷英仁、佐藤洋子	○	×
	6	感度分析	引き続き集計解析を行いながら、解析結果が妥当であるかを感度分析により確認する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	×
	7	データの解釈	設定研究について、データからどのような結果が得られて、何が課題として残ったかを確認する。	中谷英仁、佐藤洋子	○	×
	8	研究発表会	各チームで結果発表を行う。	中谷英仁、佐藤洋子	○	×
評価方法	発表(50%)、レポート(50%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布	参考書	なし			
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:演習で討議した内容を振り返り、レポートを作成すること。					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「健康・医療ビッグデータ概論」、「医療統計学特論」の単位を修得していることが望ましい。					
科目等履修生	×(受入なし)		科目等履修生 選考方法	—(受入なし)		
社会人聴講生	×(受入なし)		社会人聴講生 選考方法	—(受入なし)		
備考						

科目名	健康政策・医療経済学概論		開講日・時限	金曜日・5時限(16:20～17:50)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	栗山長門		担当教員	栗山長門、後藤 励		
科目概要	<p>公的医療保険制度など健康に関するわが国の制度や政策を概観しつつ、今後、持続可能な制度として確立するための具体的な政策展開について、ミクロ経済学等の知識も活用して講義を行う。 (オムニバス方式/全8回) (栗山長門/4回)健康政策、地域医療、疾病対策、高齢者医療について講義を行う。 (後藤 励/4回)健康政策に対する医療経済学的な視点について講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 我が国の健康政策について概略を理解する。 2. 健康政策の運用方法とその成果や課題を理解する。 3. 医療経済学の基礎を修得し、我が国における課題を理解する。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	健康政策・医療経済学(1)	概論イントロダクションとして、講義・到達目標について学ぶ。	栗山長門	○	○
	2	健康政策の経済学的分析(1)	医療費について、国民医療費の現状と国際的な医療費指標であるOECDの総保健医療支出(THE)の考え方について学ぶ。	後藤励	○	○
	3	健康政策・医療経済学(2)	医療政策・医療経済(基礎編)として、医療政策・医療経済の基礎的な知識を学ぶ。	栗山長門	○	○
	4	健康政策・医療経済学(3)	我が国の健康政策・地域医療学・疾病対策について、健康政策・地域医療学を中心に学ぶ。	栗山長門	○	○
	5	健康政策の経済学的分析(2)	保険の基礎、公的医療保険の必要性に関する経済学的な理論を学び、日本の公的医療保険の課題を考察する。	後藤励	○	○
	6	健康政策の経済学的分析(3)	医療需要の経済学的分析として、医療サービス、予防医療、たばこなどの健康関連財・サービスの需要の特徴と分析方法を学ぶ。	後藤励	○	○
	7	健康政策・医療経済学(4)	高齢者と介護保険・老年疾患として、喫緊の課題である高齢者対策と介護保険・老年疾患の基礎的な特徴を学ぶ。	栗山長門	○	○
	8	健康政策の経済学的分析(4)	医療供給の経済学的分析として、医療提供体制や診療報酬など供給側の経済学的な特徴と分析方法を学ぶ。	後藤励	○	○
評価方法	<p>小レポート(50%)、最終レポート(50%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。</p>					
テキスト	配布資料を都度用意し、適宜パワーポイントスライドを用いる。		参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『健康経済学 ～市場と規制のあいだで～』後藤励、井深陽子著。(2020).有斐閣。 『医療経済学15講(ライブラリ経済学15講APPLIED編)』細谷 圭、増原 宏明、林行成著。新世社。 『医療経済学の基礎理論と論点 講座 医療経済・政策学』西村周三、田中滋、遠藤久夫著。勁草書房。 『公衆衛生がみえる2018-2019』医療情報科学研究所(編)メディックメディア。 『国民衛生の動向 2018/2019』厚生労働統計協会(編集)。一般財団法人 厚生労働統計協会 		
授業時間外で行う学修内容	<p>予習:配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書なども読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等	「健康政策・医療経済学特論」の受講にあたっては本科目の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	○(研究生がいる場合のみ受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考		
社会人聴講生	×(受入なし)		社会人聴講生 選考方法	—(受入なし)		
備考						

科目名	健康政策・医療経済学特論		開講日・時限	土曜日・4時限(14:40~16:10)		
必修区分	選択		使用教室	講義室 3		
開講時期	2年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	栗山長門		担当教員	栗山長門、後藤 励		
科目概要	健康政策・医療経済学概論で学んだ内容を基に、社会保障制度の将来予測を行いつつ、健康政策上重要な各テーマ別に、具体的な政策提言のあり方について講義する。 (オムニバス方式/全8回) (栗山長門/5回)健康政策における予防医学、医療提供体制の実際や考え方について講義を行う。 (後藤 励/3回)健康政策及び医療政策の経済学的な分析について講義を行う。					
到達目標	1. 我が国の健康政策について代表的な疾患を取り上げ理解する。 2. 健康政策の運用方法とその成果や各課題を理解する。 3. 医療経済学のあり方を修得し、我が国における応用やその課題を理解する。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	健康政策・医療経済学	特論イントロダクションとして、講義・到達目標について学ぶ。	栗山長門	×	×
	2	循環器病	生活習慣病・循環器病予防対策について、生活習慣病・循環器病予防の基礎的な知識を習得する。	栗山長門	○	○
	3	医療提供体制・医療制度	医療提供体制・医療制度について、医療提供体制・医療制度の概念・実際を学び理解する。	栗山長門	○	○
	4	医療サービス	医療サービスについて、現在の医療サービスの基礎的な知識を習得する。	栗山長門	○	○
	5	労働衛生	労働環境管理、労務管理等、労働衛生政策について、労働経済学の視点も含めた分析方法を学ぶ。	後藤 励	○	○
	6	地域保健福祉	地域福祉、生活保護、社会福祉等に関する政策について、厚生経済学の視点も含めた分析方法を学ぶ。	後藤 励	○	○
	7	長寿政策・介護政策	長寿や介護政策として、高齢社会対策、介護保険、地域医療に関する政策について学ぶ。	栗山長門	×	×
	8	医療政策・医療経済	医療計画、地域医療構想といったマクロの医療政策について経済学的な評価方法について学ぶ。	後藤 励	○	○
評価方法	小レポート(40%)、最終レポート(60%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	配布するハンドアウトなどを都度用意し、適宜パワーポイントスライドを用いる。		参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『健康経済学 ～市場と規制のあいだで～』. 後藤励、井深陽子著。(2020). 有斐閣. 医療経済学15講(ライブラリ経済学15講APPLIED編). 細谷圭、増原 宏明、林行成著. 新世社. シンプル衛生公衆衛生学. 鈴木庄亮、辻 一郎、小山 洋(編). 南江堂. 公衆衛生がみえる2018-2019. 医療情報科学研究所(編)メディックメディア. 国民衛生の動向 2018/2019. 厚生労働統計協会(編集). 一般財団法人 厚生労働統計協会 医療経済学・地域医療学. 齋藤 信也、浜田 淳著. 岡山大学出版会. 		
授業時間外で行う学修内容	予習: 配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書なども読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「健康政策・医療経済学概論」の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	○(研究生がいる場合のみ受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考		
社会人聴講生	×(受入なし)		社会人聴講生 選考方法	—(受入なし)		
備考						

科目名	社会健康医学倫理概論		開講日・時限	土曜日・2時限(10:40~12:10)	
必修区分	必修		使用教室	講義室 2	
開講時期	1年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)	
科目責任者	八田太一		担当教員	八田太一、藤田みさお、山崎浩司	
科目概要	<p>社会健康医学領域の研究活動や臨床場面での倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を身に付けるため、倫理的課題の性質、研究における倫理的配慮について講義を行う。 (オムニバス方式・共同(一部)／全8回) (八田太一／4回)臨床研究における倫理的配慮としてインフォームドコンセントの重要性や医療倫理と法の関係性について講義し、実際の倫理審査過程の見学を行う。 (八田太一、藤田みさお／3回)(共同)社会健康医学の研究及び臨床における倫理について、事例を用いて講義を行う。 (山崎浩司／1回)終末期医療に関する講義を行う。</p>				
到達目標	<p>1. 研究活動や臨床場面で生じる倫理的課題の性質を理解する。 2. 倫理的課題に取り組む際に、適切な倫理原則や倫理指針などにアクセスできる。 3. 社会健康医学研究における倫理的配慮の要点を理解し自らの課題研究に活かせる。</p>				
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向 オンデマンド
	1	社会健康医学の倫理	医療倫理、公衆衛生倫理、研究倫理の歴史と射程を概説し、倫理的課題の性質を理解する。	八田太一、藤田みさお	○ ○
	2	医療倫理の四原則	四原則を概説し、臨床事例や研究事例とあわせて使い方を学ぶ。	八田太一、藤田みさお	○ ○
	3	医療倫理の基礎	倫理学の基礎、倫理理論の専門家をゲストスピーカーとして招聘し、倫理・哲学的な考え方を学ぶ。	八田太一	○ ○
	4	終末期医療	安楽死・尊厳死の概念を整理し、社会的に影響のあった事例を通して終末期医療の概要を学ぶ。	山崎浩司	○ ○
	5	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントの歴史と役割を概説し、治療との誤解について理解する。	八田太一	○ ○
	6	公衆衛生倫理	公衆衛生倫理のゲストスピーカーを招聘し、その歴史から近年の課題まで、その概要を学ぶ。	八田太一	○ ○
	7	研究倫理	研究倫理の歴史から国内の研究規制まで、研究倫理の概要を学ぶ。	八田太一、藤田みさお	○ ○
	8	倫理審査	静岡県立総合病院臨床研究倫理委員会の見学。研究の倫理審査過程を理解し、自らの課題研究で想定される倫理的配慮を検討する。	八田太一	○ ○
評価方法	<p>講義直後の小テスト(20%)、講義内の議論参加への積極性(40%)、期末レポート(40%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。</p>				
テキスト	講義内容に応じた資料を配布		参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤林朗(編著)『入門・医療倫理』勁草書房 ・ 赤林朗編著『ケースブック 医療倫理』医学書院 	
授業時間外で行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>				
履修要件等	「社会健康医学倫理特論」の受講にあたっては本科目の単位修得を必須とする。				
科目等履修生	×(受入なし)		科目等履修生 選考方法	—(受入なし)	
社会人聴講生	×(受入なし)		社会人聴講生 選考方法	—(受入なし)	
備考					

科目名	社会健康医学倫理特論		開講日・時限	土曜日・4時限(14:40~16:10)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 1		
開講時期	2年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	八田太一		担当教員	八田太一、藤田みさお、山崎浩司		
科目概要	<p>社会健康医学倫理特論では、倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical Legal Social Issues)に焦点を当てその問題の構造を俯瞰する、または、医療現場で生じるELSIに方策を見出すための支援や仕掛けを紹介するとともに、各トピックスについて議論する。(オムニバス方式・共同(一部)／全8回)</p> <p>(八田太一／4回)再生医療に係る倫理的課題、インターネットにおける医療情報や学術出版に関する問題点、医療現場における多職種連携、これらの調査研究や事例を提示し議論する。</p> <p>(八田太一、藤田みさお／2回)(共同)臓器移植の背景や事例研究をもとにその問題を議論するとともに、研究不正に関するロールプレイを通して臨床場面との相違を議論する。</p> <p>(山崎浩司／2回)健康格差などグローバルな健康問題における研究の状況と、社会的・倫理的課題について議論する。</p>					
到達目標	<p>1. 各トピックスのELSIを説明することができる。</p> <p>2. ELSIを解決または同定するうえで研究が果たす役割を議論する。</p> <p>3. 理論研究と調査研究のアプローチの違いを理解する。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	臓器移植	臓器移植の背景を俯瞰し、国内で生体肝移植が行なわれるようになった経緯を概説し、当事者の抱える葛藤から倫理的課題を読み取る。	八田太一、藤田みさお	×	×
	2	再生医療	「再生医療等安全性確保法」施行前後の実態調査や法改正に向けた検討など、一連の研究活動を紹介し、今後の課題を議論する。	八田太一	○	○
	3	Webサイト情報	科学性を装い患者の受診を煽る医療Webサイトを示し、近年の医療広告規制を概説し、そのあり方を議論する。	八田太一	○	○
	4	健康格差(1)	健康格差というグローバルな社会現象の概要を示し、その複雑な現象を構造化する上で社会疫学研究の実践的取り組みを紹介し、社会的・倫理的課題を議論する。	山崎浩司	○	×
	5	健康格差(2)	健康格差というグローバルな社会現象の概要を示し、その複雑な現象を構造化する上で社会疫学研究の実践的取り組みを紹介し、社会的・倫理的課題を議論する。	山崎浩司	○	×
	6	出版倫理	大学学術支援や国際誌査読の経験者をゲストスピーカーとして招聘し、学術出版に関わる倫理的課題の概要を学び、学術論文投稿のあり方を議論する。	八田太一	○	×
	7	研究不正	研究不正行為と代表的な研究不正事例を紹介し、Web教材にてロールプレイ実習をする。	八田太一、藤田みさお	×	×
	8	多職種連携	医療現場で多職種連携を実践する臨床心理士をゲストスピーカーとして招聘し、専門性や立場の違いから生じる誤解を取り上げ、倫理的課題の概念を再考する。	八田太一	○	×
評価方法	<p>講義における議論への参加・ショートレポート(80%)、期末レポート(20%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	各講義で扱う研究論文を題材とする。		参考書	なし		
授業時間外で行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習: 演習で討議した内容を振り返り、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「社会健康医学倫理概論」の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	×(受入なし)		科目等履修生 選考方法	—(受入なし)		
社会人聴講生	×(受入なし)		社会人聴講生 選考方法	—(受入なし)		
備考						

科目名	医科遺伝学概論		開講日・時限	金曜日・4時限(14:40~16:10)		
必修区分	必修		使用教室	講義室 2		
開講時期	1年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	田原康玄		担当教員	田原康玄、臼井 健、木下和生、寺尾知可史		
科目概要	<p>医科遺伝学に関する基本的な知識を修得することを目的に、遺伝子の構造と機能、細胞遺伝と染色体異常、メンデル遺伝と非メンデル遺伝、腫瘍遺伝、集団遺伝について系統的に講義する。 (オムニバス方式/全8回) (臼井 健/2回)医科遺伝学の基礎、単一遺伝子疾患について解説する。 (木下和生/2回)医科遺伝学の基礎、がんゲノムについて解説する。 (寺尾知可史/2回)遺伝子変異・多型、染色体異常と臨床形質について解説する。 (田原康玄/2回)多因子疾患のゲノム解析、集団遺伝について解説する。</p>					
到達目標	<p>1. ヒト遺伝学の基礎について、集団遺伝も含めて理解する。 2. メンデル遺伝と非メンデル遺伝について理解する。 3. 腫瘍遺伝について理解する。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	ヒトゲノム概論	医学・医療における遺伝学、ヒトゲノムの多様性、ゲノム情報の伝達について解説する。	臼井 健	○	○
	2	遺伝子の構造と機能	セントラルドグマ、遺伝子の構造と発現、エピジェネティクスについて解説する。	木下和生	○	○
	3	遺伝学的多様性	変異と多型、変異と多型が臨床形質に及ぼす影響について解説する。	寺尾知可史	○	○
	4	細胞遺伝・染色体異常疾患	染色体異常、染色体異常に基づく疾患について解説する。	寺尾知可史	○	○
	5	単一遺伝子疾患	メンデル遺伝型疾患、ミトコンドリア異常、家系・家族歴について解説する。	臼井 健	○	○
	6	多因子疾患	多因子疾患の遺伝因子と環境因子について解説する。	田原康玄	○	○
	7	腫瘍遺伝	がんの遺伝学、がん個別化医療について解説する。	木下和生	○	○
	8	集団遺伝	集団における遺伝型の頻度、人種民族差、人類進化について造詣の深い研究者を招聘し、実例に基づいてコホート研究の実際を学ぶ。	田原康玄	○	○
評価方法	<p>講義における議論への参加度(20%)、レポート(80%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。</p>					
テキスト	トンプソン&トンプソン遺伝医学 第2版		参考書	なし		
授業時間外で行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等	「医科遺伝学特論」の受講にあたっては本科目の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	○(研究生がいる場合のみ受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考		
社会人聴講生	○(研究生がいる場合のみ受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	医科遺伝学特論		開講日・時限	金曜日・5時限(16:20~17:50)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 3		
開講時期	1年次・後期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	木下和生		担当教員	木下和生、臼井 健、田原康玄、寺尾知可史		
科目概要	<p>様々な疾患を実例に、臨床・予防医学・医療における遺伝学の意義について講義する。また、疾患の遺伝的背景について、環境因子との係わり、原因遺伝子を探索・同定するためのアプローチについて講義する。 (オムニバス方式/全8回) (田原康玄/2回)生活習慣病を中心に多因子疾患のゲノム解析について解説する。 (木下和生/2回)がんのゲノム解析について解説する。 (寺尾知可史/2回)自己免疫疾患のゲノム解析について解説する。 (臼井 健/2回)小児内分泌遺伝性疾患のゲノム解析について解説する。</p>					
到達目標	<p>1. 臨床・予防医学・医療における遺伝学の意義を理解する。 2. 主要な疾患の遺伝的背景について理解する。 3. 疾患の原因遺伝子を探索・同定するためのアプローチについて理解する。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	生活習慣病(1)	生活習慣病の発症・増悪と遺伝因子との関連について解説する。	田原康玄	○	×
	2	生活習慣病(2)	生活習慣病の原因遺伝子解析方法について、多数例を対象としたゲノム網羅的解析を中心に解説する。	田原康玄	○	×
	3	がん(1)	がんの発症・増悪と遺伝因子との関連について解説する。	木下和生	×	×
	4	がん(2)	がんの原因遺伝子解析方法について、がんゲノム解析・がん遺伝子パネル検査を中心に解説する。	木下和生	×	×
	5	自己免疫疾患(1)	自己免疫疾患の発症・増悪と遺伝因子との関連について解説する。	寺尾知可史	○	○
	6	自己免疫疾患(2)	自己免疫疾患の原因遺伝子解析方法について、臨床症例を対象としたゲノム解析を中心に解説する。	寺尾知可史	○	○
	7	小児遺伝性疾患(1)	小児内分泌遺伝性疾患の発症・増悪と遺伝因子との関連について解説する。	臼井 健	○	×
8	小児遺伝性疾患(2)	小児内分泌遺伝性疾患の原因遺伝子解析方法について、家系解析・未診断疾患イニシアティブを中心に解説する。	臼井 健	○	×	
評価方法	<p>講義における議論への参加度(20%)、レポート(80%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布	参考書	なし			
授業時間外で行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等	<p>本科目の受講にあたっては「医科遺伝学概論」の単位修得を必須とする。 「ゲノム医学(疾患と遺伝子)」の受講にあたっては本科目の単位を修得していることが望ましい。</p>					
科目等履修生	○(研究生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考			
社会人聴講生	○(研究生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考			
備考						

科目名	遺伝カウンセリング		開講日・時限	土曜日・2時限(10:40~12:10)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 3		
開講時期	1年次・後期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	臼井 健		担当教員	臼井 健		
科目概要	主要な遺伝性疾患の病態や、遺伝的問題の把握、それらの疾患に関わる遺伝カウンセリングの基本的な考え方や留意点について講義を行う。					
到達目標	1. 臨床遺伝学の概論を理解する。 2. 遺伝カウンセリングに必要な基礎知識を身につける。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	臨床遺伝学入門	遺伝学の歴史、基礎知識を学ぶ。	臼井 健	○	×
	2	常染色体劣性遺伝	常染色体劣性疾患の遺伝の仕組みを理解する。	臼井 健	○	×
	3	常染色体優性遺伝	常染色体優性疾患の遺伝の仕組みを理解する。	臼井 健	○	×
	4	X連鎖性遺伝	X連鎖性遺伝疾患の遺伝の仕組みを理解する。	臼井 健	○	×
	5	ミトコンドリア遺伝	ミトコンドリア遺伝子疾患の特徴を理解する。	臼井 健	○	×
	6	染色体異常	染色体異常による疾患を理解する。	臼井 健	○	×
	7	エピジェネティクス	エピゲノムの概念、機序を理解する。	臼井 健	○	×
	8	がん	遺伝性腫瘍の特徴とその診療を理解する。	臼井 健	○	×
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布	参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示			
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「医科遺伝学概論」の単位修得を必須とする。 「医科遺伝学特論」を併せて履修することが望ましい。					
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考			
社会人聴講生	×(受入なし)	社会人聴講生 選考方法	—(受入なし)			
備考						

科目名	遺伝カウンセリング実習		
必修区分	選択		
開講時期	2年次・前期(後半)	単位数	1単位(30時間)
科目責任者	臼井 健	担当教員	臼井 健
科目概要	遺伝カウンセリングで学んだ内容を基に、遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、予診の聴取、家系図の作成、電話フォローアップなどについて実習を行う。		
到達目標	クライアントへ適切に接し、予診の聴取、家系図の作成を適切に行うことができる。		
実習計画	<p>遺伝カウンセリングの現場に陪席し遺伝診療科の診療現場において、指導医の元で遺伝カウンセリングを担当する。</p> <p>実習先として静岡県立総合病院、静岡県立こども病院等の臨床遺伝専門医の在籍している施設で腫瘍、成人、小児、周産期の遺伝カウンセリングの場に陪席する。</p> <p>実習の後半では事前情報収集(インタビュー)、家系図の作成等を行い、カウンセリング前のカンファレンスで発表し問題点を提示し討議に参加する。</p>		
評価方法	事前の情報収集能力、カンファレンスにおけるプレゼン能力、現場における対応力、基礎知識の有無を準備された資料や現場でのコミュニケーション力などより評価 <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全30時間中20時間以上)を条件とする。		
テキスト	内容に応じて配布	参考書	必要に応じてその都度指示
授業時間外で行う学修内容	予習:1年次に履修した「医科遺伝学概論」の内容を復習しておくこと。 復習:実習で学んだ内容を記録としてまとめること。		
履修要件等			
科目等履修生	×(受入なし)	科目等履修生 選考方法	—
社会人聴講生	×(受入なし)	社会人聴講生 選考方法	—
備考	遠隔受講(同時双方向型・オンデマンド型)不可		

科目名	ゲノム医学(疾患と遺伝子)		開講日・時限	土曜日・3時限(13:00~14:30)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 3		
開講時期	2年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	臼井 健		担当教員	臼井 健、森 潔		
科目概要	<p>医科遺伝学概論及び医科遺伝学特論で学んだ内容を基に、代表的な遺伝性疾患及び具体的な遺伝診療現場における課題とその解決手法について講義を行う。 (オムニバス方式/全8回) (臼井 健/4回)内分泌疾患やホルモン受容体異常症等に関して解説し、講義を行う。 (森 潔/4回)ファブリー病や多発性嚢胞腎等に関して解説し、講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 遺伝性疾患について理解する。 2. 代表的な遺伝性疾患についての病態を理解する。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	内分泌疾患概論	内分泌疾患の総論、ホルモン及び受容体の基本事項を理解する。	臼井 健	×	×
	2	ホルモン受容体異常症	ホルモン受容体遺伝子異常による疾患の概念、各論を理解する。	臼井 健	○	○
	3	転写因子異常症	遺伝子発現の転写レベルでの異常症について解説する。	臼井 健	○	○
	4	エピゲノム	エピジェネティックな異常により発症する疾患を理解する。	臼井 健	○	○
	5	ファブリー病	ファブリー病の臨床診断、遺伝様式、遺伝子診断、疾患特異的薬物療法について解説する。	森 潔	×	×
	6	多発性嚢胞腎	常染色体優性多発性嚢胞腎の臨床診断、遺伝子診断、薬物療法について解説する。	森 潔	○	○
	7	アルポート症候群	アルポート症候群の臨床診断、遺伝子診断、薬物療法について解説する。	森 潔	○	○
	8	ミトコンドリア病	ミトコンドリア病による糖尿病、難聴、腎疾患、遺伝子診断、薬物療法について解説する。	森 潔	○	○
評価方法	<p>議論への参加度(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じて資料配布		参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示		
授業時間外で行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「医科遺伝学特論」の単位を修得していることが望ましい。					
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考		
社会人聴講生	△(科目等履修生がいれば受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	フィールド実習			
必修区分	選択			
開講時期	2年次・前期(前半)	単位数	1単位(30時間)	
科目責任者	田原康玄	担当教員	小島原典子、田原康玄、森 寛子	
科目概要	<p>医療機関や公衆衛生機関における疾病予防対策、健康増進施策の実態と課題、県内のゲノムコホート研究の具体的研究内容やその成果について実習を行う。 (実習/全30時間) (小島原典子/2時間) 疾病予防対策、健康増進施策について概説し、実習目的について説明する。 (田原康玄/2時間) 疾病予防・健康増進に対するゲノムコホート研究の意義・役割について講義を行う。 (森寛子/26時間) 実習の引率及び現場での調整を行う。</p>			
到達目標	<p>1. 疾病対策、産業保健対策の現場の課題を説明できる。 2. 環境衛生、健康増進の現場の課題を説明できる。 3. ゲノムコホートの概要を説明できる。</p>			
実習計画		テーマ	内容	担当教員
	1日目	概論	午前:実習の説明 午後:ゲノムコホート研究で得られる知見と疾病予防・健康増進についての概説	小島原典子、 田原康玄
	2日目	校外実習(1)	ネットワーク会議(県庁、または保健所) 結核など感染症対策の実際	森 寛子
	3日目	校外実習(2)	産業保健実習 食品衛生管理、または製造工場の職場巡視	森 寛子
	4日目	校外実習(3)	環境衛生実習 上・下水道施設など	森 寛子
	5日目	校外実習(4)	病院実習 感染症病棟などの見学	森 寛子
評価方法	<p>レポート(50%)、参加度(25%)、実習記録(25%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3以上の出席(全5日中4日以上)を条件とする。</p>			
テキスト	なし	参考書	なし	
授業時間外で行う学修内容	<p>予習:1年次に履修した公衆衛生の必修科目の内容を復習しておくこと。 復習:実習で学んだ内容を記録としてまとめるとともに、レポートを作成すること。</p>			
履修要件等				
科目等履修生	×(受入なし)	科目等履修生 選考方法	—	
社会人聴講生	×(受入なし)	社会人聴講生 選考方法	—	
備考	遠隔受講(同時双方向型・オンデマンド型)不可			

科目名	死生学		開講日・時限	土曜日・5時限(16:20~17:50)		
必修区分	選択		使用教室	講義室 3		
開講時期	2年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	山崎浩司		担当教員	山崎浩司		
科目概要	現代社会の人の生き死ににまつわる多様な課題を扱う死生学について、臨床死生学を中心に解説する。また、地域における看取りと死別と支えあいについて講義を行う。					
到達目標	1. 死生学の成り立ちと射程について説明できる。 2. 死生学の代表的なテーマについて現状と課題を説明できる。 3. 自分なりの死生観を自覚し他者の死生観を尊重できる。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	死生学とは	死生学の成り立ちと種類及び主要なテーマについて概説する。	山崎浩司	×	×
	2	エンド・オブ・ライフケア	人生の最終段階におけるケアの現状と課題について解説する。	山崎浩司	○	×
	3	看取りと尊厳	人生の最期まで尊厳をもって生ききるための看取りとはどのようなものかを解説する。	山崎浩司	○	×
	4	緩和ケアと健康増進	生命を脅かす疾患の患者に対する緩和ケアのあり方を健康増進的に捉え直すアプローチを解説する。	山崎浩司	×	×
	5	看取りの医療と宗教	看取りにおける医療と宗教の連携・協働について、臨床宗教師に焦点を当てて解説する。	山崎浩司	○	×
	6	死別体験とグリーフケア	死別体験の健康に対する影響とグリーフケアの基本的な考え方や方法について解説する。	山崎浩司	○	×
	7	周産期といのち	人工妊娠中絶、流産・死産経験など、子どものいのちをめぐる問題について解説する。	山崎浩司	×	×
8	デス・エデュケーション	人がダイレクトに死、看取り、死別について考え語り合う機会となるデス・エデュケーションについて解説する。	山崎浩司	×	×	
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	・臨床死生学テキスト編集委員会編(2014)『テキスト臨床死生学:日常生活における「生と死」の向き合い方』勁草書房 ・石丸昌彦・山崎浩司編(2018)『死生学のフィールド』放送大学教育振興会		参考書	・清水哲郎・島藺進編(2010)『ケア従事者のための死生学』ヌーヴェルヒロカワ		
授業時間外で行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等						
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考		
社会人聴講生	◎(単独でも受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	社会健康医学における質的研究法		開講日・時限	金曜日・3時限(13:00~14:30)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 1		
開講時期	1年次・後期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	山崎浩司		担当教員	山崎浩司、森 寛子		
科目概要	<p>人の持つ価値観や行動原理、所属集団の行動規範などを理解するために有用なアプローチである質的研究方法について講義する。量的研究との違い、個人インタビューその他のデータ収集法、データの収集と分析を通じてデータに根ざした理論の生成を目指すグラウンデッド・セオリー・アプローチなどについて解説するとともに、演習を通して体験的理解を促す。 (オムニバス方式・共同(一部)／全8回) (山崎浩司／3回)質的研究の特性や分析方法について講義を行う。 (森 寛子／3回)データ収集方法やインタビューの方法について講義を行う。 (山崎浩司、森 寛子／2回)(共同)質的研究に関する実務演習を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 質的研究の持つ利点と弱点を理解する。 2. 質の高い質的データを収集するための基本的技術を身につける。 3. 質的研究の分析過程を理解し、透明性の高い知見を導き出せるようになる。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	質的研究の概説	質的研究と量的研究の違いを理解する。質的研究ならではのリサーチクエスション、倫理的配慮等、方法論的特性を把握する。	山崎浩司	×	×
	2	質的研究のデータ収集(1)	代表的なデータ収集法とサンプリング法を理解する。	森 寛子	○	×
	3	質的研究のデータ収集(2)	半構造化個人インタビューとフォーカスグループインタビューについて学ぶ。	森 寛子	○	×
	4	演習(1)	個人インタビューとフォーカスグループインタビューの演習を行う。	山崎浩司、森 寛子	×	×
	5	質的研究の分析(1)	代表的なデータ分析法を確認した上で、質的研究における分析が量的研究の解析とどう違うのかを理解する。	山崎浩司	○	×
	6	質的研究の分析(2)	具体的な分析手続きについて、グラウンデッド・セオリー・アプローチを例に学ぶ。質的データ管理ソフトについても紹介する。	山崎浩司	○	×
	7	演習(2)	データ分析の演習を行う。	山崎浩司、森 寛子	×	×
8	研究結果の評価基準と統合への可能性	研究から得られた知見の評価基準、そして、質的研究の統合の可能性について解説する。	森 寛子	×	×	
評価方法	<p>演習(30%)、授業外学習の課題(20%)、レポート(50%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実編(2019)『ワードマップ質的研究法マッピング』新曜社 さらに、講義内容に応じて資料を配布	参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。			
授業時間外で行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等	「社会健康医学における混合研究法」の受講にあたっては、本科目の単位を修得していることが望ましい。					
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考		
社会人聴講生	◎(単独でも受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	社会健康医学における混合研究法		開講日・時限	金曜日・5時限(16:20～17:50)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 1		
開講時期	2年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	八田太一		担当教員	八田太一		
科目概要	混合研究法(Mixed Methods Research)は、質的アプローチと量的アプローチを統合させる研究方法論であり、単一の研究の中で質と量の2つのアプローチを採用し統合を試みた研究は混合型研究と呼ばれる。本科目では、混合研究法を学ぶ際に最初の関門である「統合」の概念について講義を行うとともに、具体的な研究計画を用いて討論し、研究手法として使いこなす手がかりを指導する。					
到達目標	1. 質的研究と量的研究とを問わず、調査研究の基本的な手順を理解する。 2. 混合法における基本デザインと統合の様式の間関係を理解する。 3. 自分の研究(計画)で手続きダイアグラムを描けるようになる。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	調査研究の研究手続	リサーチクエスチョン(RQ)の設定から結果を解釈するまで、研究手続の基本を理解する。	八田太一	○	×
	2	統合とコアデザイン	混合研究法の鍵概念である「統合」と基本的なデザインとを対比的に理解する。	八田太一	○	○
	3	混合型リサーチクエスチョン	質的RQ、量的RQ、混合型RQの特徴を概説し、RQレベルでの統合を理解する。	八田太一	○	○
	4	サンプリングとデータ収集	サンプリングレベルの統合とデータソースからデータを切りとる方法を理解する。	八田太一	○	○
	5	データ分析と結果の提示	分析レベルの統合と質的・量的結果を統合させるジョイントディスプレイを理解する。	八田太一	○	○
	6	手続きダイアグラム	手続きダイアグラムの構成を理解し、各学生が研究テーマに合わせてダイアグラムを描く。	八田太一	○	×
	7	科学哲学概論	混合型研究を批判的に評価するための視座や科学哲学の基本に触れる。	八田太一	○	○
	8	個別発表とふりかえり	各学生がRQとダイアグラム使って研究(計画)の骨子を説明し、総合討論を行う。	八田太一	×	×
評価方法	発表及び発表資料(70%)、講義内の議論参加への積極性(30%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	「混合研究法入門」抱井尚子(2015)医学書院 「混合研究法の基礎」(監訳)土屋敦・八田太一・藤田みさお(2017)西村書店		参考書	「混合研究法への誘い」(編集)抱井尚子・成田慶一(2016)遠見書房 「混合研究法の基本型デザインと統合」八田太一(2019)立命館人間科学研究		
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、事例発表の準備をすること。					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「社会健康医学における質的研究法」の単位を修得していることが望ましい。					
科目等履修生	×(受入なし)		科目等履修生 選考方法	—(受入なし)		
社会人聴講生	×(受入なし)		社会人聴講生 選考方法	—(受入なし)		
備考						

科目名	精神保健学概論・心理社会的支援技術論		開講日・時限	金曜日・4時限(14:40～16:10)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 1		
開講時期	2年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	天笠 崇		担当教員	天笠 崇		
科目概要	県内における精神疾患予防対策、精神健康増進施策の立案に当たり、実際に県民に行動を喚起させる手法について、特に認知行動療法や社会生活技能訓練(SST)の適用方法について講義及び演習を行う。					
到達目標	1. 県内の精神保健的課題について理解できる。 2. 県民に行動を喚起させる手法について理解できる。 3. 県内の精神保健的課題に気づき、心理社会的支援技術を使って解決のために立案できる。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	精神的健康を取り巻く状況	精神的健康を取り巻く世界、日本、県の概況について解説する。	天笠 崇	○	○
	2	静岡県内の精神保健的課題	県内の各地域(東部、中部、西部)が抱える精神保健的課題と取組み状況について、精通したゲストスピーカーを招聘し解説する。	天笠 崇	○	○
	3	心理社会的支援技術論(1)	心理社会的支援技術として認知行動療法を中心に演習を交えながら講義する。	天笠 崇	×	×
	4	心理社会的支援技術論(2)	心理社会的支援技術として社会生活技能訓練(SST)を中心に演習を交えながら講義する。	天笠 崇	×	×
	5	家族の精神保健的課題	県内の家族の精神保健的課題とそれらを支援するために可能な心理社会的技術について講義する。	天笠 崇	○	○
	6	学校教育の精神保健的課題	県内の学校の精神保健的課題とそれらを支援するために可能な心理社会的技術について講義する。	天笠 崇	○	○
	7	勤労者の精神保健的課題	県内の勤労者の精神保健的課題とそれらを支援するために可能な心理社会的技術について講義する。	天笠 崇	○	○
	8	現代社会の精神保健的課題	県内の現代社会的な精神保健的課題とそれらを支援するために可能な心理社会的技術について講義する。	天笠 崇	○	○
評価方法	定期試験(50%)、レポート(20%)、ディスカッション参加度・発言内容(30%) ＜成績評価の前提条件＞選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布		参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示		
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「ヘルスコミュニケーション概論」、「行動医科学」の単位を修得していることが望ましい。					
科目等履修生	○(研究生がいる場合のみ受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考		
社会人聴講生	○(研究生がいる場合のみ受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	医療・ケア組織論		開講日・時限	土曜日・5時限(16:20~17:50)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 3		
開講時期	2年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	天笠 崇		担当教員	天笠 崇、佐々木八十子		
科目概要	医療や介護等の現場において、疾病予防対策や健康増進施策を継続的かつ効果的に展開するための組織のあり方等について講義を行う。 (オムニバス方式/全8回) (天笠 崇/5回)健康増進組織について、特に健康職場・健康増進活動拠点病院(HPH)・コプロダクションに関して講義を行う。 (佐々木八十子/3回)医療組織文化の調査事例をもとに、組織文化・診断・変革のプロセスに関して講義を行う。					
到達目標	1. 医療や介護における組織文化の概念を理解する。 2. 組織の特性を把握するための組織分析の手法を理解する。 3. 組織プロフィールから、疾病予防対策や健康増進施策を展開する際の促進要因や阻害要因を理解し、課題に取り組むために求められる変化と適応について検証できる。 4. 健康職場、HPH、SDGs、コ・プロダクションの概要を理解する。 5. 実践の際重要となるチームングとリーダーシップについて理解する。					
授業展開		テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	医療・ケア組織論について	イントロダクション 健康増進施策・疾病予防対策・医療・ケアを支援ととらえ、支援と組織の関係について概説する。	天笠 崇	×	×
	2	組織論の歴史と国内外の組織文化研究	組織論の歴史並びに国内外の医療・ヘルスケアにおける組織文化研究について解説する。	佐々木八十子	○	○
	3	方法論と事例	組織文化の概念フレームワークと診断ツール、並びに組織プロフィールの実例から見える課題や取り組みについて解説する。	佐々木八十子	○	○
	4	組織変革	疾病予防対策や健康増進施策を継続的かつ効果的に展開するために組織が求められる変化と適応について検討する。	佐々木八十子	○	○
	5	健康職場	健康職場とは何か、提唱された背景と考え方、進め方について、特に産業医・産業保健スタッフ活動の視点から概説する。	天笠 崇	○	○
	6	HPHとコ・プロダクション	健康増進活動拠点病院(HPH)とは何か、その歴史的背景について、特に健康の社会的決定要因(SDH)との関係について、さらに英国で発展してきたコ・プロダクションについて講義する。	天笠 崇	×	×
	7	SDGs	持続可能な開発目標(SDGs)とは何か、その背景、わが国の現状、医療・ケア組織との関わりの可能性について講義する。	天笠 崇	○	○
8	チームングとリーダーシップ	健康職場・HPH・SDGsを進めるには組織変革が必要となり得、その要となるチームングとリーダーシップについて講義する。	天笠 崇	○	×	
評価方法	毎回の小レポート(30%)、課題レポート(70%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布	参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・組織を変える, キムS・キャメロン著, ロバートE・クイン著 (ファーストプレス) ・人を助けるとはどういうことか, エドガー・H・シャイン, 英治出版 ・SDGsの基礎, 沖大幹ほか, 事業構想大学院大学出版部 ・日本HPHネットワーク・ウェブの「研究・試料」 ・チームが機能するとはどういうことか, エイミー・C・エドモンドソン, 英治出版 			
授業時間外で行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「高齢者ケア概論」、「行動医科学」の単位を修得していることが望ましい。					
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考			
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考			
備考						

科目名	高齢者ケア特論		開講日・時限	土曜日・2時限(10:40~12:10)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 1		
開講時期	2年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	森 寛子		担当教員	森 寛子、小林美亜		
科目概要	<p>高齢者ケア概論で学んだ内容を基に、要介護高齢者の原因疾患による特異性に注目した介護の現状課題の把握、検討について講義する。 (オムニバス方式/全8回) (森 寛子/6回)高齢者介護の多様な状況の課題に関する講義を行う。 (小林美亜/2回)高齢者の健康と認知症に関する講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 原因疾患による介護の課題の違いや高齢者の健康状態の多様性を理解する。 2. 経口摂取、患者との意思疎通など日常的な課題から、大規模自然災害、看取りなど介護の様々な状況での介護の課題を理解する。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	高齢者の健康問題	多病、慢性疾患、フレイルなど高齢者の健康問題について理解を深める。	小林美亜	○	○
	2	口から食べるという支援	介護施設や在宅での摂食嚥下リハビリテーションの取り組みを理解し、食べることの文化的影響と介護者への心理社会的影響について講義する。	森 寛子	○	○
	3	遷延性意識障害患者さんの介護	交通事故での頭部外傷で、重度の後遺障害を持つ患者介護者団体からゲストスピーカーを招聘して、患者との意思疎通が困難な介護の現状を理解する。	森 寛子	×	×
	4	多職種連携の地域ケアシステム	医療依存度の高い在宅介護について、訪問看護師で研究者であるゲストスピーカーを招いて理解を深める。	森 寛子	○	×
	5	認知症支援と地域生活	認知症患者さんの地域社会での暮らしを支える地域の取り組みについて理解する。	小林美亜	○	○
	6	大規模災害下での課題	東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県気仙沼市での、災害数年後までの高齢者介護の課題とその対応を解説する。	森 寛子	○	○
	7	看取り	施設、自宅、病院のそれぞれでの看取りに精通した研究者をゲストスピーカーとして招聘し、高齢者介護では看取りの問題が避けて通れないことについて理解を深める。	森 寛子	○	○
8	まとめ	これまでの講義内容を総括し、高齢者介護の課題について、研究課題を想定して個別発表をおこなう。	森 寛子	×	×	
評価方法	<p>個別発表(80%)、講義内の議論への参加度(20%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じて資料配布	参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。			
授業時間外で行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「高齢者ケア概論」の単位修得を必須とする。					
科目等履修生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考			
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考			
備考						

科目名	高齢者運動・リハビリテーション論		開講日・時限	金曜日・4時限(14:40~16:10)		
必修区分	選択		使用教室	演習室 3		
開講時期	2年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	藤本修平		担当教員	藤本修平		
科目概要	高齢者の疾病・介護予防、機能回復を目指したリハビリテーションについて、臨床・地域・ヘルスケア業界・ヘルステック領域(ヘルステックテクノロジー)などの切り口から、どのような視点を大事にして各主体が展開しているか、また介護予防・健康増進施策に至る重要な手続きなどについて講義を行う。					
到達目標	1. 介護予防および機能回復を目指したリハビリテーションについて、様々な切り口から説明できる。 2. リハビリテーションに関連するヘルスケア業界の取り組みを理解し、身近な課題について自らアイデアを立案することができる。 3. 介護予防・健康増進に関する様々な手法がどのような手続きによって実証されているか説明できる。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	リハビリテーションと社会参加	広義・狭義のリハビリテーション概念及び社会参加におけるリハビリテーションの役割について解説する。	藤本修平	○	×
	2	介護予防と機能回復に向けたリハビリテーション総論	エビデンスに基づいた脳卒中リハビリテーション・整形疾患リハビリテーションの具体的な内容(ガイドラインの活用を含む)と介護予防との関係を解説する。	藤本修平	○	×
	3	介護予防・機能回復に向けた脳科学リハビリテーション	介護予防・リハビリテーション領域で最も重要視されている脳科学アプローチに注目し、具体的なリハビリテーション手法や施策を解説する。	藤本修平	○	×
	4	介護予防分野におけるリハビリテーションの保険外サービス	昨今、市場が大きくなっている保険外のリハビリサービスについて、介護予防や機能回復を主眼において、その特徴と役割について解説する。	藤本修平	○	×
	5	ヘルステック領域におけるリハビリテーション施策	リハビリテーションに関わるヘルステック領域の実務経験が豊富な者をゲストスピーカーとして迎え、ヘルステック領域のリハビリテーション施策について、介護予防・健康増進に繋がるアプリ開発に至る研究知見の活用及びその効果を中心に解説する。	藤本修平	○	×
	6	介護予防・健康増進における地域リハビリテーション	介護予防・地域リハビリテーションの研究者をゲストスピーカーとして迎え、介護予防・健康増進のために地域で行われている介入・イベントやその実証実験などを解説する。	藤本修平	○	×
	7	介護予防・健康増進におけるコミュニティリハビリテーション	コミュニティリハビリテーションの実務経験が豊富な者をゲストスピーカーとして迎え、介護予防・健康増進のために行われているコミュニティベースの施策とその効果について解説する。	藤本修平	○	×
	8	介護予防・社会参加を目的としたヘルスケア情報プラットフォーム	介護予防やリハビリテーション領域に関するヘルスケア関連の情報プラットフォームを取り上げ、その意義を解説する。	藤本修平	×	×
評価方法	講義における議論の参加度(40%)、レポート(60%) ＜成績評価の前提条件＞選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布		参考書	なし		
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等						
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考		
社会人聴講生	◎(単独でも受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	聴覚コミュニケーション学概論		開講日・時限	水曜日・6時限(18:30~20:00)		
必修区分	自由		使用教室	演習室 3		
開講時期	1年次・後期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	高木 明		担当教員	高木 明、ホロウエル		
科目概要	人間の音声言語はコミュニケーション手段として主要な手段であるが、音声言語獲得には聴覚が必須であることを講義する。 (オムニバス方式/全8回) (高木明/4回)人間にとってのコミュニケーション重要性を考え、特に音声言語獲得のためには聴覚が必須であること、新生児聴覚スクリーニングの重要性について解説する。 (ホロウエル/4回)音声言語の多様性、成り立ち、習得について解説する。					
到達目標	1. コミュニケーション手段の差違を理解する。 2. 音声言語が聴覚を基礎としていることを知る。 3. 音声言語獲得のプロセスを理解する。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	社会とコミュニケーション	社会の形成にコミュニケーションが不可欠であることを知る。	高木 明	×	×
	2	音声言語	音声言語について、音素、音韻、言語音について理解する。	ホロウエル	○	○
	3	聴覚とは	音認知と語音認知は別次元であり、認知は中枢の発達に依存することを知る。	高木 明	○	○
	4	意味の構築	単語の意味をどのように脳に意味として繋げているか(representation)を理解する。	ホロウエル	○	○
	5	イントネーション	聞かせの流れ(イントネーション)による効果とその役割(母/父親語の役割)を理解する。	ホロウエル	○	○
	6	英語と日本語	言語が違えば、何が異なるかを知る。	ホロウエル	×	×
	7	音声言語獲得の臨界期	音声言語獲得には臨界期、最適期があることを知る。	高木 明	○	○
8	新生児聴覚スクリーニング	新生児聴覚スクリーニングがmass screeningとして静岡県でどのように実施され、その意義は何かを知る。	高木 明	○	○	
評価方法	討論の参加度・議論の内容(30%)、レポート(70%) ＜成績評価の前提条件＞自由科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布		参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・新版 聴覚と音声(電子情報通信学会 編・発行) ・ピクルス聴覚生理学 1995 ・聴覚心理学概論(ムーア)1994 		
授業時間外で行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	「聴覚コミュニケーション学特論」の受講にあたっては本科目の単位修得を必須とする。 「小児難聴評価法」「小児難聴マネジメント」「老年オーディオロジー」の受講にあたっては本科目の単位習得が望ましい。					
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考		
社会人聴講生	◎(単独でも受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	聴覚コミュニケーション学特論		開講日・時限	水曜日・6時限(18:30~20:00)		
必修区分	自由		使用教室	演習室 3		
開講時期	1年次・後期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	高木 明		担当教員	高木 明、田中智英巳		
科目概要	音、音声の物理学と人間の耳の構造・機能、さらに中枢での理解、認知のメカニズムについて講義する。 (オムニバス方式/全8回) (高木 明/5回) 耳の構造と機能について実際の側頭骨標本を用いて講義を深め、特に蝸牛の精妙な構造、聴神経の遠心路の役割、音の物理学について、空気の振動の伝わり方、物理表現の仕方(単位)を解説する。 (田中智英巳/3回) 人間の聴覚の評価法とその測定法を知り、物理的単位との関係を理解する。具体的に高齢難聴者の聴力測定を行い、評価、考察を行う。					
到達目標	1. 音の物理学の基礎を理解する。 2. 聴力レベルの dB が感覚量であることを知る。 3. 語音認知には蝸牛の遠心路、中枢の役割が大きいことを知る。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	音の物理学	音声の物理学的測定法及び単位を理解する。	高木 明	○	○
	2	耳の構造	中耳、内耳の構造を理解し、音の伝わり方を理解する。	高木 明	×	×
	3	聴力閾値とオーディオグラム	オーディオグラムは感覚量であって物理量でないことを知る。	田中智英巳	○	○
	4	聴力測定の実際	実際にオーディオメーターで聴力検査を行い、骨導検査を理解する。	田中智英巳	×	×
	5	聴覚生理	蝸牛の電気生理から上位中枢信号処理を学ぶ。	高木 明	○	○
	6	聴覚心理学	聴覚には遠心路があって心理現象が大きく関与することを学ぶ。	高木 明	○	○
	7	音声認識	環境音の中から語音を認知するメカニズムを知る。	高木 明	○	○
	8	加齢と聴覚	加齢と共に語音弁別、認識が衰えることを知る。	田中智英巳	○	○
評価方法	討論の参加度・議論の内容(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件>自由科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布		参考書	・ピクルス聴覚生理学 1995 ・聴覚心理学概論(ムーア)1994		
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「聴覚コミュニケーション学概論」の単位修得を必須とする。 「小児難聴評価法」「小児難聴マネジメント」「老年オーディオロジー」の受講にあたっては本科目の単位習得が望ましい。					
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考		
社会人聴講生	◎(単独でも受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	小児聴覚評価法		開講日・時限	水曜日・6時限(18:30~20:00)		
必修区分	自由		使用教室	演習室 3		
開講時期	2年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	高木 明		担当教員	高木 明、田中智英巳		
科目概要	<p>小児の聴覚閾値は行動観察によるもの、電気生理学的検査などあるが、言語聴取(弁別)と音の閾値の関連などについて講義を行うとともに、小児聴力検査について演習を行い実践的な理解を促す。 (オムニバス方式/全8回) (高木 明/3回)小児の聴力の評価法の種類、原理、適応について講義を行う。 (田中智英巳/5回) 他覚的聴力検査、特に脳波による測定について講義、演習を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 音の検知、弁別、同定、理解のプロセスを理解する。 2. 成長、発達に応じた乳児の音への反応様式を知る。 3. 実際に乳幼児の聴力検査ができるようにする。 4. 他覚的聴力検査の生理学的根拠を理解する。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	乳児と感覚器	小児の感覚器は環境の刺激に応じて発達すること、シナプスの刈り込みについて理解する。	高木 明	○	○
	2	小児の運動と認知の発達	小児の聴力検査には小児の年齢に応じた運動能力を知り、その上で、音への反射、反応を判断する。	高木 明	×	×
	3	小児の聴力検査の種類	原始反射検査、条件付け、遊戯聴検などを理解する。	田中智英巳	○	○
	4	他覚的聴力検査(1)	小児難聴の評価には他覚的検査を組み合わせて評価する必要がある。その種類原理を学ぶ。	高木 明	○	○
	5	他覚的聴力検査(2)	具体的に各種他覚検査の評価の仕方を学ぶ。 (ABR, ASSR, DP-OAE, acoustic reflex など)	田中智英巳	×	×
	6	小児聴力検査の実際(1)(生後3ヶ月から6ヶ月)	BOAの実際を学ぶ。	田中智英巳	×	×
	7	小児聴力検査の実際(2)(生後7ヶ月から2歳)	COR, PEEP show test の実際を学ぶ。	田中智英巳	×	×
8	小児聴力検査の実際(3)(3歳から5歳)	COR, 遊戯聴検などの実際を学ぶ。	田中智英巳	×	×	
評価方法	<p>討論の参加度・議論の内容(30%)、検査習熟度(30%)、レポート(40%) <成績評価の前提条件>自由科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布		参考書	Pediatric audiology 3rd. Thieme		
授業時間外で行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等	<p>「小児難聴マネジメント」の受講にあたっては本科目の単位修得を必須とする。 本科目の受講にあたっては「聴覚コミュニケーション学概論」「聴覚コミュニケーション学特論」の単位修得が望ましい。</p>					
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考		
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	脳の発達と聴覚		開講日・時限	木曜日・6時限(18:30~20:00)		
必修区分	自由		使用教室	演習室 3		
開講時期	2年次・前期(前半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	高木 明		担当教員	高木 明、フェヘルヴァーリ		
科目概要	<p>乳幼児の聴覚野の発達をfNIRS(近赤外脳機能計測法)などを用いて、客観的に捉える方法を確認し、難聴児の聴覚野をスムーズに発達させるための介入法を探索する。また、視覚刺激と言語野の関連を研究し、その結果を講義する。 (オムニバス方式/全8回) (高木明/4回) 音声言語の認識のための中枢の所在と相互関係について講義を行う。 (フェヘルヴァーリ/4回) 音声言語認識のための脳の活動を可視化し、中枢各部位の相互の関連性を明らかにする手法を論じて、その具体的事例を呈示しながら、講義を行う。また、データの解釈に当たっての留意点について講義する。</p>					
到達目標	<p>1. 脳の構造と電気信号の発生メカニズムを知る。 2. 脳の活動の定量的計測法の種類、原理を理解し、それぞれの長所、短所を知る。 3. 具体的に fNIRS, EEG の測定法と評価法を知る。 4. 語音認知は視覚野、種々の連合野が関係していることを理解する。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	皮質構造と機能	言語発達に関連する皮質領域の構造と機能を論じて、音声言語認識のための脳の役割を知る。	高木 明	×	×
	2	脳の電気信号	脳の電気信号(EEG、ASSRなど)を測定する技術を紹介する。	フェヘルヴァーリ	×	×
	3	脳イメージング	脳の構造と活動(fMRI、fNIRSなど)をイメージする技術を紹介する。	フェヘルヴァーリ	○	○
	4	音声言語発達	音の知覚から語音認知に至る過程の脳の活動部位の変遷をfNIRSで定量的に評価する。	フェヘルヴァーリ	○	○
	5	音声認識の中枢	音声認識は視覚の影響を受けること、言語野、聴覚野、視覚野、前頭前野などが相互に作用することについて論じる。	高木 明	○	○
	6	fNIRSとEEG	fNIRSは脳表の活動を評価でき、深部の脳活動はEEGでみる。両者同時計測で正確な新知見を得る。	フェヘルヴァーリ	○	○
	7	今後の研究展望	難聴児の親子へのどのような介入が効果的な音声言語発達を促すかを脳機能科学から定量的に評価する。	高木 明	○	○
8	科学的思考	音声言語発達を促す手法を評価するためには様々な要因を科学的に分析する必要があることを学ぶ。	高木 明	○	○	
評価方法	<p>討論の参加度・議論の内容(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件>自由科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布		参考書	なし		
授業時間外で行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等						
科目等履修生	◎(単独でも受入)		科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考		
社会人聴講生	◎(単独でも受入)		社会人聴講生 選考方法	書類選考		
備考						

科目名	小児難聴マネジメント		開講日・時限	水曜日・6時限(18:30~20:00)		
必修区分	自由		使用教室	演習室 3		
開講時期	2年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	高木 明		担当教員	高木 明、田中智英巳		
科目概要	<p>乳幼児の難聴が判明すれば、補聴器装用を開始し、その効果が乏しければ人工内耳を考慮する。人工内耳適応がない場合、視覚情報によるコミュニケーション手段を考える。いずれも発達に応じた評価と介入法について講義する。 (オムニバス方式/全8回) (高木明/6回) 補聴器、人工内耳について解説する。小児においては補装具装用後の母子関係が聴覚の発達に大切であることを講義する。 (田中智英巳/2回) 補聴器の適合の手順、評価などについて講義する。</p>					
到達目標	<p>1. 聴覚障害に対して適切な補償がなされなければ何が起るかをを知る。 2. 補聴器の仕組みを知って調整ができるようにする。 3. 人工内耳の適応と調整ができるようにする。術前の保護者への対応ができるようになる。</p>					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	母子関係論	出生直後からの母子関係の重要性を理解する。	高木 明	○	○
	2	保護者への聴覚障害の伝え方	聴覚障害を理解し、難聴への接し方の助言、聴覚補償機器の説明などを実施できるようにする。	高木 明	○	○
	3	補聴器の種類と選択	補聴器、骨導補聴器、人工内耳、などの特徴を知り、適切な聴覚補償機器を適合できるようにする。	高木 明	×	×
	4	人工内耳	人工内耳の適応を理解し、手術のリスク、術後の留意点、経過を説明できるようにする。	高木 明	○	○
	5	音声言語発達と視覚情報	音声と視覚が協働して語音認知されることを知る。人工内耳装用児に手話は適切でないことを知る。	高木 明	○	○
	6	補聴器の適合の実際	補聴器適合検査を理解し、実施できるようにする。	田中智英巳	×	×
	7	補聴器適合検査	補聴器の調整、装用閾値、装用時の語音聴取能、騒音下での聞き取り検査などを理解する。	田中智英巳	○	○
	8	人工内耳マッピング	人工内耳のマッピングについて学ぶ。	高木 明	○	○
評価方法	<p>討論の参加度・議論の内容(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件>自由科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布	参考書	Pediatric audiology 3rd. Thieme			
授業時間外で行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
履修要件等	<p>本科目の受講にあたっては「小児聴覚評価法」の単位修得を必須とする。 本科目の受講にあたっては「聴覚コミュニケーション学概論」「聴覚コミュニケーション学特論」の単位修得が望ましい。</p>					
科目等履修生	◎(単独でも受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考			
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考			
備考						

科目名	老年オーディオロジー		開講日・時限	木曜日・6時限(18:30~20:00)		
必修区分	自由		使用教室	演習室 3		
開講時期	2年次・前期(後半)		単位数	1単位(90分×8コマ)		
科目責任者	田中智英巳		担当教員	田中智英巳		
科目概要	日本と世界の高齢化社会の現状、加齢に伴う聴覚システムの変化、難聴と認知症について講義するとともに、補聴器やその他の補聴機器による難聴マネジメントについて演習を行う。					
到達目標	1. 日本と世界の高齢化社会の現状を理解する。 2. 加齢に伴う聴覚の変化について学ぶ。 3. 高齢者が難聴を放置した場合のリスクと補聴器などによる難聴マネジメントについて学ぶ。					
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員	同時双方向	オンデマンド
	1	高齢化社会	世界と日本の高齢化社会の現状を理解する。	田中智英巳	○	○
	2	高齢者の聴覚システムと難聴	加齢に伴う聴覚システムの変化と自覚的・他覚的聴覚検査結果の変化について学ぶ。	田中智英巳	○	○
	3	難聴と認知症	高齢者が難聴を治療せずに放置した際の認知症発症リスクやその他の弊害について理解する。	田中智英巳	○	○
	4	高齢者の難聴マネジメント(1)	補聴器に関する評価、選択、フィッティング理論について学ぶ。	田中智英巳	○	○
	5	高齢者の難聴マネジメント(2)	補聴器の使用説明、フィッティングの実際を学ぶ。	田中智英巳	×	×
	6	高齢者の難聴マネジメント(3)	補聴器適合検査の実際を学ぶ。	田中智英巳	×	×
	7	高齢者の難聴マネジメント(4)	耳型採取の実際について学ぶ。	田中智英巳	×	×
8	高齢者の難聴マネジメント(5)	人工内耳、埋め込み型骨導補聴器、補聴援助システムについて理解する。	田中智英巳	○	○	
評価方法	課題(30%)、実習手技習熟度(30%)、レポート(40%) ＜成績評価の前提条件＞自由科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布	参考書	Geriatric Audiology Essentials of Modern Hearing Aids: Selection, Fitting, and Verification			
授業時間外で行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
履修要件等	本科目の受講にあたっては「聴覚コミュニケーション学概論」「聴覚コミュニケーション学特論」の単位修得が望ましい。					
科目等履修生	◎(単独でも受入)	科目等履修生 選考方法	書類選考 及び 面接選考			
社会人聴講生	○(研究科生がいる場合のみ受入)	社会人聴講生 選考方法	書類選考			
備考						

科目名	修士論文		
必修区分	選択		
開講時期	1年次・後期～2年次・通年	単位数	8単位
科目責任者	研究指導教員	担当教員	研究指導教員
科目概要	これまでの業務上の経験、講義・演習やフィールド実習等で得た気づき、各人の関心に基づいて、解決すべき保健・医療上の課題を設定し、研究計画書を作成する。そして、研究計画書を踏まえたデータの収集、調査と分析を進め、その結果について、修士論文の作成を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。 2. 健康寿命の延伸を図るために、科学的思考や論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。 3. 研究を推進するに当たり、確かな倫理観に裏付けられた研究態度を身に付けることができる。 		
授業展開	<p>1年次後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連文献の調査 ・研究課題に関する研究計画書の作成 ・研究倫理委員会の審査申請書の作成 <p>2年次前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究対象者、研究対象施設等との調整 ・研究の実施 ・研究で得られたデータの整理、分析 <p>2年次後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表会における発表 ・指摘、助言への対応 ・修士論文の作成 <p>(田原 康玄)生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関するゲノム・疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高木 明)新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(菅原 照)慢性腎臓病(CKD)などの生活習慣病の早期発見、早期診断、早期治療介入の推進が日本人の健康問題の予防と健康寿命の延長に関連することについての研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(臼井 健)精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(天笠 崇)労働ストレス要因と精神疾患、職場のメンタルヘルス対策、社会生活技能訓練を初めとした心理社会的支援による精神健康の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(小島原 典子)ワクチンによる呼吸器感染症の予防効果、産業保健介入が働きがいに与える影響、電磁界など物理因子の健康影響などに関するシステムティックレビューや疫学研究を指導し、論文作成を支援する。</p> <p>(森 潔)高齢者の健康長寿延伸を目的とした、腎疾患の投薬内容、医療費、疾病重症化リスクに関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(栗山 長門)長寿・認知症・がんを中心とした予防医学に関する研究、社会における健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究課題を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(木下 和生)抗体遺伝子やがん関連遺伝子の変化を惹起する酵素AIDの遺伝子多型と、アレルギー免疫疾患および悪性腫瘍の発症頻度との関連を調査する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(山本 精一郎)がん患者の健康増進や予後改善に繋がる生活習慣・心理社会的要因等を明らかにするための、がん患者コホート研究におけるデータ解析について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(山崎 浩司)死別体験者のグリーフに対する健康増進的支援、臨床死生学、インフォーマルケアに関する研究課題について、主に質的研究を用いた論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(森 寛子)在宅介護者のQOL、質的研究法、量的研究法による少数集団の体験・価値観の探索に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>		

	<p>(佐藤 康仁)生活環境における物理的因子、化学的因子、生物学的因子、気象因子、地理的因子等と健康に関する統計解析を用いた疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(中谷 英仁)医薬に関する介入、観察研究の統計学的手法及び解析、疾患の発症・悪化及び死亡に関する予測因子探索及び予測モデル構築に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(藤本 修平)リハビリテーション領域の介入研究・大規模データ分析、リハ職種の診療ガイドライン活用・Evidence-based practiceに関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(佐々木八十子)医療や介護等の質の向上のための持続的かつ効果的なコミュニケーション・組織の在り方に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(八田 太一)混合研究法を用いたインフォームド・コンセントにおける医療者・患者関係の分析をはじめ、患者の自発性や意思決定場面にかかわる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(佐藤 洋子)観察研究における統計学的手法及び解析、希少難治性疾患におけるプロフィール解析及び診断/予後モデルの構築・評価に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>		
評価方法	研究課題設定の適切性・学術的意義、研究方法の適切性、研究成果及び考察の妥当性、独創性、新規性等の観点から論文を評価		
テキスト	—	参考書	—
備考			

科目名	課題研究		
必修区分	選択		
開講時期	1年次・後期～2年次・通年	単位数	4単位
科目責任者	研究指導教員	担当教員	研究指導教員
科目概要	これまでの業務上の経験、講義・演習やフィールド実習等で得た気付き、各人の関心に基づいて、解決すべき保健・医療上の課題を設定し、研究計画書を作成する。そして、研究計画書を踏まえたデータの収集、調査と分析を進め、その結果について、課題研究報告書の作成を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。 2. 健康寿命の延伸を図るために、科学的思考や論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。 3. 研究を推進するに当たり、確かな倫理観に裏付けられた研究態度を身に付けることができる。 		
授業展開	<p>1年次後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連文献の調査 ・研究課題に関する研究計画書の作成 ・研究倫理委員会の審査申請書の作成 <p>2年次前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究対象者、研究対象施設等との調整 ・研究の実施 ・研究で得られたデータの整理、分析 <p>2年次後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表会における発表 ・指摘、助言への対応 ・課題研究報告書の作成 <p>(田原 康玄)生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関するゲノム・疫学研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高木 明)新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(菅原 照)慢性腎臓病(CKD)などの生活習慣病の早期発見、早期診断、早期治療介入の推進が日本人の健康問題の予防と健康寿命の延長に関連することについての研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(臼井 健)精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(天笠 崇)労働ストレス要因と精神疾患、職場のメンタルヘルス対策、社会生活技能訓練を初めとした心理社会的支援による精神健康の改善に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(小島原 典子)ワクチンによる呼吸器感染症の予防効果、産業保健介入が働きがいに与える影響、電磁界など物理因子の健康影響などに関するシステムティックレビューや疫学研究を指導し、報告書作成を支援する。</p> <p>(森 潔)高齢者の健康長寿延伸を目的とした、腎疾患の投薬内容、医療費、疾病重症化リスクに関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(栗山 長門)長寿・認知症・がんを中心とした予防医学に関する研究、社会における健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究課題を中心に、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(木下 和生)抗体遺伝子やがん関連遺伝子の変化を惹起する酵素AIDの遺伝子多型と、アレルギー免疫疾患および悪性腫瘍の発症頻度との関連を調査する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(山本 精一郎)がん患者の健康増進や予後改善に繋がる生活習慣・心理社会的要因等を明らかにするための、がん患者コホート研究におけるデータ解析について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(山崎 浩司)死別体験者のグリーフに対する健康増進的支援、臨床死生学、インフォーマルケアに関する研究課題について、主に質的研究を用いた報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(森 寛子)在宅介護者のQOL、質的研究法、量的研究法による少数集団の体験・価値観の探索に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p>		

	<p>(佐藤 康仁)生活環境における物理的因子、化学的因子、生物学的因子、気象因子、地理的因子等と健康に関する統計解析を用いた疫学研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(中谷 英仁)医薬に関する介入、観察研究の統計的手法及び解析、疾患の発症・悪化及び死亡に関する予測因子探索及び予測モデル構築に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(藤本 修平)リハビリテーション領域の介入研究・大規模データ分析、リハ職種の診療ガイドライン活用・Evidence-based practiceに関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(佐々木八十子)医療や介護等の質の向上のための持続的かつ効果的なコミュニケーション・組織の在り方に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(八田 太一)混合研究法を用いたインフォームド・コンセントにおける医療者・患者関係の分析をはじめ、患者の自発性や意思決定場面にかかわる研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(佐藤 洋子)観察研究における統計的手法及び解析、希少難治性疾患におけるプロフィール解析及び診断/予後モデルの構築・評価に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p>		
評価方法	課題分析の的確性や解決策の現実性、課題の構造・背景の分析方法、具体的な解決策及び考察の妥当性・有用性等の観点から報告書を評価		
テキスト	—	参考書	—
備考			